OLYMPUS®

CAMEDIA

取扱説明書

デジタルカメラ

C-960ZOOM

■このたびは、オリンパス　デジタルカメラをお買い上げいただき、ありがとうございます。

■ご使用前にこの説明書をお読みください。

■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、試し撮りをすることをおすすめします。

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCIルールの限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

本取扱説明書をお読みになる前に

●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはオリンパスサービスステーションまでお問い合わせください。
●本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

Copyright©2000 OLYMPUS Co., Ltd.

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格とは、日本電子工業振興協会（JEIDA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。

⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電池使用上のご注意

次のことをお守りにならないと、電池の液もれ、発熱、発火、破裂や感電、やけどの原因となります。

⚠ 危険

1. ニッケル水素電池は、専用のオリンパス製蓄電池と充電器をご使用ください。
2. ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
3. 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊やアルカリ液の飛散が生じ危険です。
4. ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
5. 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に直接接続しないでください。
6. 火中への投下や、加熱をしないでください。
7. 電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。

安全にお使いいただくために（つづき）

⚠警告

1. 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
2. 電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
   - このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
   - 火中への投下、加熱、ショート、分解をしないでください。
   - 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
   - 充電できないアルカリ電池やリチウム電池を充電しないでください。
   - ＋－を逆にして装着・使用しないでください。
   - 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。
3. ニッケル水素電池の充電が所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
4. 液漏れしたり、変色、変形その他異常を見つけたときは使用しないでください。
5. 電池を誤って飲まないよう乳幼児の手の届かぬ場所で保管及び使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
6. 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。
7. カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。

⚠注意

1. オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「キャメディア」専用です。他の機器に使用しないでください。
2. 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。
3. 乾電池と蓄電池、及び容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
4. 蓄電池は必ず４本（機種によっては2本）同時に充電してご使用ください。
5. 蓄電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。

6. 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ、発熱により、火災やけがの原因になります。
7. 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
8. 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など高温の場所で使用･放置しないでください。
9. 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。

その他取り扱い上のご注意

⚠警告

1. フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して1m以内の距離で撮影しないでください。
2. 日光および強い光に向けて本製品を使用しないでください。目に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。
3. 可燃性ガスおよび爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
4. この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生のおそれがあります。
   - 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
   - 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
   - 目の前でフラッシュが発光し、視力に回復不可能な程の障害を起こす。
   - カメラの動作部でけがをする。

安全にお使いいただくために（つづき）

5. 湿気やほこりの多い場所にカメラを保管しないでください。火災や感電の原因となります。
6. フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
7. 万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、速やかに電池を抜き、販売店またはオリンパスサービスステーション（裏面参照）にご相談ください。火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

1. 異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、最寄りのサービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
2. 本製品の分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。
3. 濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。
4. 異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。

ご使用の前に

お取り扱いについて

●本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で本製品を使用または保管した場合、動作不良や故障の原因となりますので絶対に避けてください。

・直射日光下や夏の海岸など
・高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
・砂、ほこり、ちりの多い場所
・火気のある場所
・冷暖房器、加湿器のそば
・水に濡れやすい場所
・振動のある場所
・自動車の中

●カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
●レンズを直射日光に向けて放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。
●長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
●三脚に取り付ける際、カメラを回さないでください。
●本体の電気接点部には手を触れないでください。
●フラッシュを短時間に何度も発光させると、発光部の温度があがることがありますので、直接手を触れないでください。
●レンズに無理な力を加えないでください。

電池について

●電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック２個、あるいは単３ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池４本を使用します。
●撮影条件、使用環境及び電池により撮影枚数が減少する場合があります。
●オリンパス製ニッケル水素電池をおすすめします(充電器セット BU-40SNH／BU-40S／B-31S／B-30S)。繰り返し使用でき経済的です。また、低温時のご使用にも有効です。
●アルカリ電池は使用できますが、電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池に比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
●マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
●電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液漏れ・発熱・破損の原因となります。交換するときは、＋－の向きに注意して正しく入れてください。
●電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
●電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

ご使用の前に（つづき）

●長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池を使用の場合は、必ず電池で指定された充電器で完全に充電してからお使いください。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池をご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。ニッカド電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。

●シール（絶縁被覆）をすべて剥がしている電池（裸電池）は、危険ですので絶対にご使用にならないでください。

●ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲

放電（機器使用時）：０℃～４０℃

充電：０℃～４０℃

保存：－２０～３０℃

上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。

液晶画面とバックライトについて

●本製品の液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライト及びコントロールパネルには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）

●一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。

●本製品の液晶画面は精密度の高い技術でつくられていますが一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶画面の構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。

目次

目次（つづき）

目次（つづき）

主な特長

・高画質131万画素CCD(総画素数)と高性能レンズで、クラス最高レベルの画像が得られます。

・3倍ズームレンズと2Xデジタルテレモード＊で6倍ズーム相当の撮影が可能です。

・枚数を気にせず撮影できる、リムーバブルメモリのスマートメディアを採用(パノラマ機能付/P. 73)。

・ビデオ出力端子付で、画像のテレビ再生も楽しめます(NTSC方式/P. 88)。＊＊

・別売の機能付スマートメディアを使って合成画像も簡単に作れます。(P. 14)

・DPOF規格に対応したプリンタやラボで自動的にプリントできるようにカードに予約ができます。(P. 100)

・光学ファインダーに加え、1.8型液晶モニタもファインダーとして使えます。(P. 42)

・液晶モニタ再生時、3倍に拡大して確認できます。(P. 85)

・露出補正(P. 61)やスポット測光(P. 63)などの多機能を簡単なメニュー操作で楽しめます。

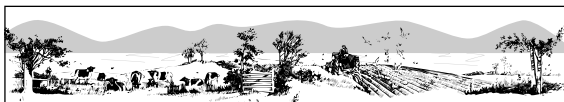
・電池駆動、軽量、コンパクトサイズで携帯性に優れています。

＊　SQ画質モードでのみご使用いただけます。
＊＊ 海外では地域によりご利用になれません。

デジタルカメラを使った楽しみ方

機能付スマートメディアを使えば

オリンパスのスマートメディア(カード)を使えば、通常の記録だけでなく、下記の機能もお楽しみいただけます。

・**パノラマ合成機能(P.73)**
標準カード(パノラマ合成機能付)(8MB=同梱/8・16・32・64MB=別売)と別売のCAMEDIA Master 1.2を使ってパノラマ合成画像作成

・**合成テンプレート機能**
テンプレートカードM-4T(4MB=別売)を使って合成画像作成

・**カレンダー機能**
カレンダーカードM-4C(4MB=別売)を使ってカレンダー画像作成

・**手書きタイトル機能**
手書きタイトルカードM-4N(4MB=別売)を使ってタイトル入り画像作成

撮影した画像をプリントアウト（P. 99)

- オリンパス製専用プリンタP-330N/P-330を使えば、スマートメディアに保存された画像を簡単にプリントできます。
- カメラであらかじめ画像の選択や日付プリントの設定を行って、DPOF対応のプリンタやラボで、スマートメディアに保存された画像を自動的にプリントできます。

パソコンに接続すると(P.107)

- 別売のCAMEDIA Master 1.2を使ってデータを加工・保存、プリントアウトしたり、パノラマ合成画像の作成ができます。なお、お手持ちのパソコン接続キットC-1KP/C-2KP/C-3KP/C-4KP/C-5KPのソフトではご使用になれません。

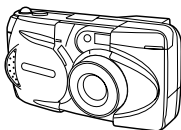
その他にも

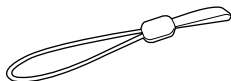
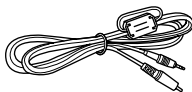
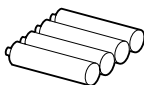
- 通信アダプタT-100HS(別売)にモデムカードを組み合わせて、携帯電話から画像を伝送できます。
- テレビに接続して、大きい画面で画像を見ることができます。

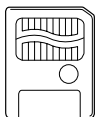
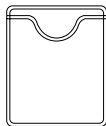
1

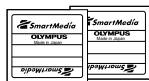
準備をしましょう

中身を確認しましょう（同梱品）

カメラ本体

カメラケース

ストラップ

ビデオケーブル

アルカリ単3 電池（4本）

取扱説明書／保証書／愛用者カード

スマートメディア（8MB）

スマートメディア用静電気防止ケース

スマートメディア取扱説明書

スマートメディア用ラベル（2枚）

スマートメディア用ライト プロテクトシール（4枚）

各部の名称

カメラ本体

シャッターボタン(P.34参照)
コントロールパネル(P.21参照)
ズームレバー
(P.49参照)
フラッシュ(P.50参照)
レンズバリア
(P.40参照)
レンズ
コネクタカバー
ビデオ出力端子
(P.88参照)
DC入力端子
(P.25参照)
カードカバー
(P.26参照)
データ入出力端子
(P.111参照)

各部の名称（つづき）

カメラ本体（つづき）

フラッシュモード切替ボタン(P.51)/消去ボタン(P.87)

セルフタイマーボタン(P.57)/プリントボタン(P.101)

マクロ・デジタルテレボタン(P.55/56)/プロテクトボタン(P.86)

ファインダー(P.40)

液晶モニタON/OFFボタン(P.29)

視度調整ダイヤル(P.34)

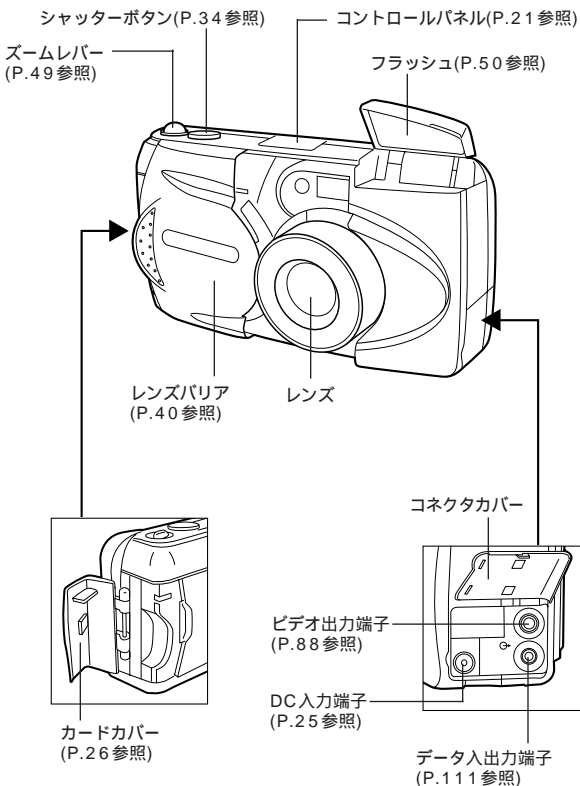
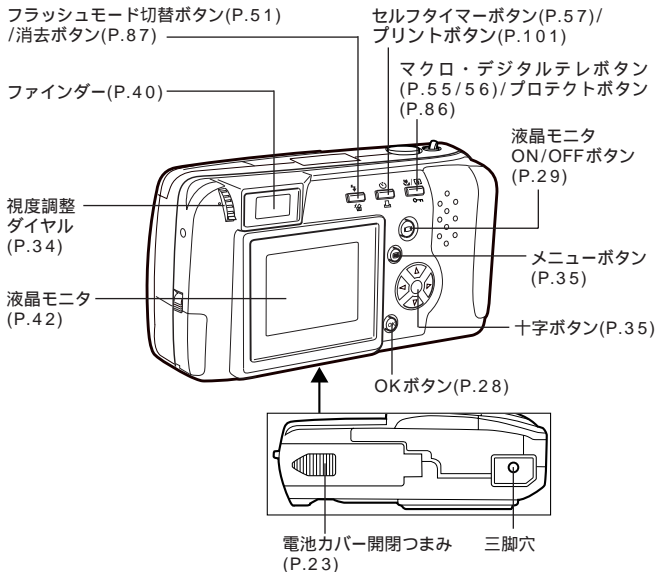
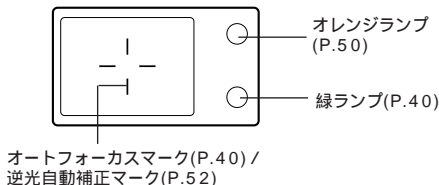
メニューボタン(P.35)

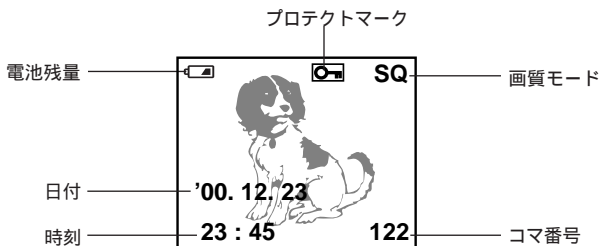
液晶モニタ(P.42)

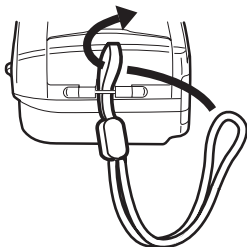
十字ボタン(P.35)

OKボタン(P.28)

電池カバー開閉つまみ(P.23)

三脚穴

ファインダー

コントロールパネル

液晶モニタ

ストラップ・カメラケースを取り付けます

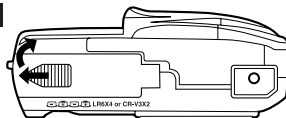
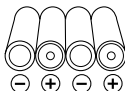
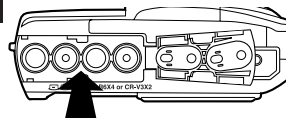
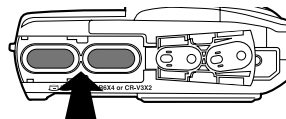
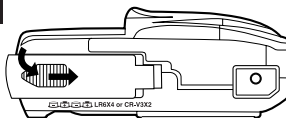
操作方法

1 カメラにストラップを取り付けます。

2 ストラップをカメラケースに通します。

注意 ・上記にしたがって正しい取り付けを行ってください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れて本体を落とした場合、損害等一切の責任は当社では負いかねますのでご了承ください。

電池を入れます

電池は単３アルカリ電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、またはニッカド電池４本、あるいはリチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）を２個使用します。

操作方法

1 電源が切れている（レンズバリアが閉じていて、液晶モニタとコントロールパネルが消灯している）ことを確認します。

2 電池カバーを横にずらし引き上げます。

3 図のように電池の向きを正しく合わせて入れます。

リチウムパックは、CAMEDIAのラベルがレンズ側に来るようにして入れます。逆向きにすると入りません。

4 部分を押し、電池カバーが閉じた状態で横にずらしてロックします。

電池カバーが閉まりにくいときは無理に押さず、電池カバーをカバーの刻印の「OPEN」の方向へ押しながら閉めてください。

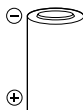
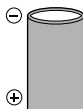
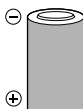
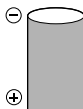
電池を入れます（つづき）

注意

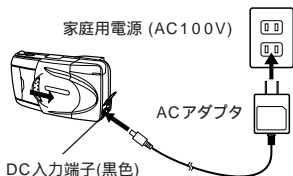
- **アルカリ電池は性能のバラツキが大きく、特に低温では劣化します。ニッケル水素電池またはリチウム電池パックのご使用をおすすめします。**
- **マンガン電池は使用できません。電池に関するご注意をお読みください。(P.3/7参照)**
- **電池を外した状態で内部をさわらないでください。**
- **電池を外した状態で約1時間放置すると、全ての設定は初期設定に戻ります。**

⚠ 警告

外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

このような形状の電池はご使用になれません

シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）

負極（マイナス面）が平らな電池で、負極の一部がシール（絶縁被覆）で覆われているもの

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの

負極（マイナス面）が平らな電池で、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの

AC アダプタを使う場合（別売）

別売の専用ACアダプタ(C-6AC/C-7AC)で、家庭用電源(AC100V)から電源を取ることができます。

注意

- **ACアダプタE-7ACはご使用になれません。**
- **ACアダプタを長時間接続するとACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。**

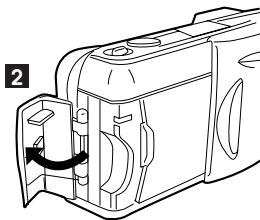
⚠ 警告

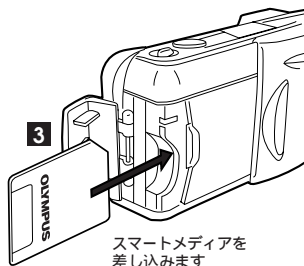
火災・感電・やけどのおそれがあります。

- 電源は必ずAC100Vをご使用ください。
- 専用ACアダプタは日本国内でのみ使用可能です。外国では使用しないでください。
- ACアダプタのプラグの差し込みが不完全な状態では使用しないでください。
- 濡れた手でのACアダプタのプラグの抜き差しは絶対にしないでください。
- 万一ACアダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常が発生した場合、直ちに電源プラグをコンセントから抜いて使用を中止してください。また、直ちに販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- 専用のACアダプタ(EIAJ規格・極性統一型プラグ付)以外は絶対に使わないでください。カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故が起きる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた障害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。
- ACアダプタをコンセントから抜くときは、必ずACアダプタの本体を持って抜いてください。
- ACアダプタのコードを無理に引っ張ったり、折り曲げたり、ねじったり、継ぎ足したりすることは絶対にやめてください。
- ACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があったりした場合は、すぐにお買い上げの販売店にご相談ください。
- ACアダプタを接続したり外したりする場合は、必ず本体の電源がOFFになっていることを確認してください。(カメラに電池が入っている場合も同様です。)
- 使用しないときは、必ずACアダプタをコンセントから外してください。

スマートメディアをセットします

スマートメディアを
差し込みます

操作方法

1 電源が切れている（レンズバリアが閉じていて、液晶モニタとコントロールパネルが消灯している）ことを確認します。

2 カードカバーを開けます。

3 スマートメディア(以下カードといいます)を図示の方向に差し込みます。カバーを閉じます。

機能付スマートメディア(別売)を使用する場合も同様に差し込みます。

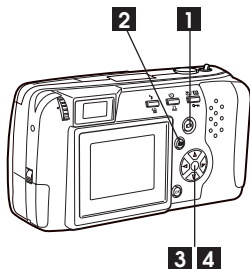
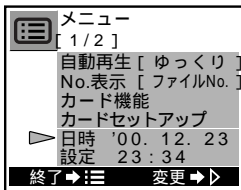
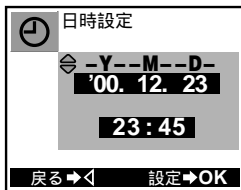
市販の5Vカードは使用できません。当社カードまたは市販の3V(3.3V)カードをご使用ください。

市販の3V(3.3V)カードをご使用の場合、カメラでの初期化をおすすめします。

注意

- **デジタルカメラ作動中には、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、電源プラグを抜いたりしないでください。カード内のデータが破壊されることがあります。**
- **カードは精密機器です。無理な力や衝撃を与えないでください。**
- **カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。**
- **破壊されたデータの復旧はできません。**

日付／時刻を設定します

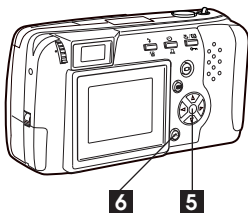
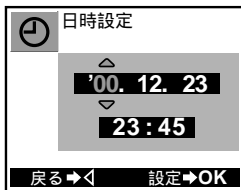
カメラの日付や時刻を設定します。

液晶モニタ（再生メニュー）

液晶モニタ（日時設定画面）

操作方法

1 **レンズバリアを閉じて液晶モニタON/OFFボタンを押し、モニタ画面を表示させます。**

2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を表示させます。**
メニューの操作方法はp.35をご覧ください。

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「日時設定」を選択し、▷ を押すと、日時設定画面が表示されます。**

4 **十字ボタンの △ ▽ を押して日付の順序を**
DMY(日・月・年)、
MDY(月・日・年)、
YMD(年・月・日)、
の中から選択し、▷ を押して数値の設定に移動します。

日付／時刻を設定します（つづき）

液晶モニタ（日時設定画面）

5 十字ボタンの△▽を押して最初の数値を設定し、▷を押して次に移動します。同様に最後まで繰り返します。

2000年は「00」と表示されます。

6 OKボタンを押すと設定され、また押すとメニューモードから抜けます。

0秒の時報に合わせてOKボタンを押すと、正確に合わせることができます。

OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

メモ

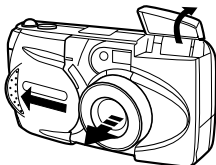
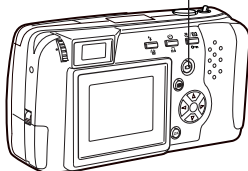
- **時計は西暦を4ケタで計算しますので、2000年以降も正確に刻時します。**

注意

- **電池を抜いた状態で約1時間放置すると設定した日付は解除されます(当社試験条件による)。この場合は再度設定を行ってください。**
- **大切な撮影の前には、日付・時刻が正しく設定されていることをご確認ください。**
- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

基本操作をマスターします

電源を入れます

レンズバリアをスライドさせる

コントロールパネル

操作方法

1 撮影するとき

レンズバリアをカチッと音がするまでスライドさせると、撮影モードで電源が入ります。**（P.39～80）**

コントロールパネルに電池残量と撮影可能枚数と画質モードが表示されます。

2 再生するとき

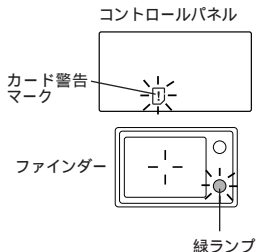
レンズバリアが閉じた状態で液晶モニタON/OFFボタンを押すと、再生モードで電源が入ります。**（P.81～97）**

注意

- **デジタルカメラ作動中には、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、電源プラグを抜いたりしないでください。カード内のデータが破壊されることがあります。**
- **なにも操作をしないまま3分経過すると、パワーセーブ機構が働き、コントロールパネルの表示が消えます。レンズバリアをいったん閉めて再度開くかシャッターボタン、ズームレバー等を操作すると、表示が再び点灯します。なお、約4時間たつと自動的に電源が切れますが、しばらく撮影しないときはできるだけ電源を切っておいてください。（新品電池をお使いの場合は、電池の種類によりこの時間が長くなる場合があります。）**

基本操作をマスターします（つづき）

カードチェックについて

撮影モード（レンズバリアの開いた状態）で電源が入ると、カメラが自動的にカードチェックを行います。

カードが入っていない時/カードに問題がある時

コントロールパネルのカード警告マークとファインダー横の緑ランプが点滅します。

液晶モニタ（初期化画面）

カードの初期化が必要な時

コントロールパネルのカード警告マークが点灯し、自動的に初期化画面になります。(P. 94参照)

電池残量について

撮影モード（レンズバリアの開いた状態）で電源が入ると、コントロールパネルに電池残量が表示されます。
電池残量の目安は次のように表示されます。

が点灯（自動的に消えます）。
電池の残量は十分です。撮影できます。

が点滅し、コントロールパネルの他の表示は通常通り点灯。
電池の残量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。
撮影は可能ですが、途中で電池が切れる恐れがあります。

が点滅し(12秒後に消灯)、コントロールパネルの他の表示は消灯。
電池の残量がなくなりました。新しい電池と交換してください。

注意
- **長期の旅行、大切な行事、寒冷地での撮影などには予備の電池をご用意になることをおすすめします。**
- **電池を使用して電池の寿命末期に撮影した場合、撮影後または電源を入れたときに「ピピッ　ピピッ　ピピッ」と連続して警告音が鳴り、コントロールパネルのコマ番号が点滅することがあります。このような場合は撮影が正常に行なわれておりません。新しい電池に交換のうえ再度撮影を行なってください。**
- **ニッケル水素電池をお使いの場合は、リチウム電池パックをお使いの時よりも早く電池残量警告が点滅します。**

基本操作をマスターします（つづき）

撮影可能枚数について

撮影モード（レンズバリアの開いた状態）で電源が入ると、コントロールパネルに撮影可能枚数が表示されます。

・撮影可能枚数が0になると「ピー」という音が鳴り、緑ランプが点滅し、液晶モニタには「撮影可能枚数が0です」と表示されます。再度電源を入れたときも同じです。(P. 133参照)
・撮影可能枚数は設定画質モードによって変わります。
・画質モードの設定はP.65をご覧ください。

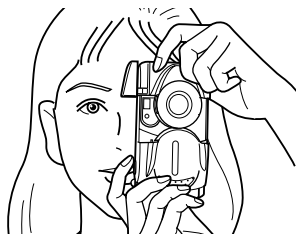
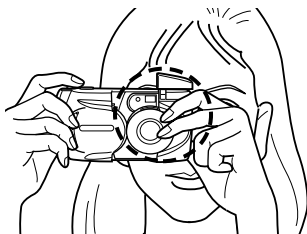
撮影可能枚数

画質モード / 画素数 / スマートメディアの記憶容量	SQ		HQ	SHQ	
	640x480		1280x960		
	SQ標準	SQ高画質	HQ	SHQ	SHQ-TIFF
2MB	約30枚	約8枚	約9枚	約4枚	0枚
4MB	約60枚	約16枚	約18枚	約9枚	1枚
8MB	約122枚	約32枚	約36枚	約18枚	約2枚
16MB	約244枚	約65枚	約73枚	約36枚	約4枚
32MB	約489枚	約130枚	約146枚	約73枚	約8枚
64MB	約978枚	約260枚	約292枚	約146枚	約16枚

注意
- **撮影毎にカウンタが減らなかったり、1コマ消去しても増えない場合があります。**
- **撮影対象によりデータ量が異なる為、枚数が若干増減することがあります。**

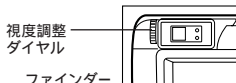
カメラの構え方

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。
たて位置のときは、フラッシュが上になるようにします。

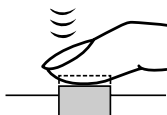
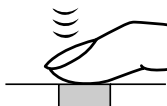
よこ位置　　**たて位置**

悪い例

> **注意**　・レンズ、フラッシュに指やストラップがかからないようにご注意ください。

基本操作をマスターします（つづき）

視度の合わせ方

ファインダーを見やすくします。

・視度調整ダイヤルをまわし、オートフォーカスマークが鮮明に見える位置に合わせます。

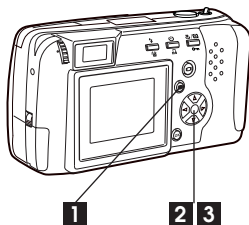
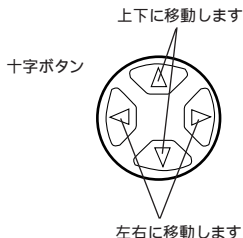
シャッターボタンの押し方

シャッターボタンの押し方には2つのステップがあります。
撮影を始める前に練習しましょう。

軽く押した状態（半押し）
・ピントと露出が固定されます。
・ファインダー横の緑ランプが点灯します。

「半押し」した状態をさらに押し込む（押し切り）
・撮影が行われピピッと音がします。
・カードへの書込中は緑ランプが点滅します。

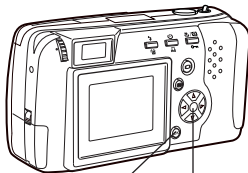
注意
・シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、写真がぶれる原因になります。
・シャッターボタンを半押しした時にファインダー横の緑ランプが点滅した場合は、ピントが合っていません。いったん指を離し、再度シャッターボタンを押してください。

メニューの操作方法

メニューで各機能を設定します。

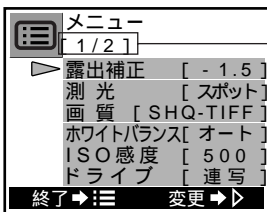
操作方法

1 メニューボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。
項目と現在の設定が表示されます。

2 十字ボタンの△ ▽を押して、設定したい項目を選択します。

3 十字ボタンの ▷ を押すと、その項目の設定内容が表示されます。

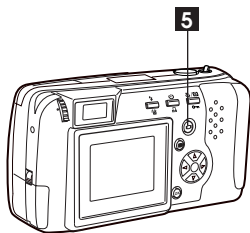
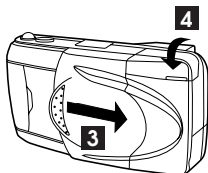
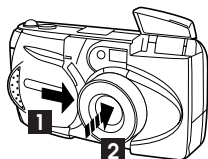
基本操作をマスターします（つづき）

4 十字ボタンの△ ▽を押して、設定を選択します。

5 設定が終了したら、OKボタンを押して設定を確認します。

6 再度OKボタンを押すと、設定が保存されてメニューモードから抜けます。

液晶モニタ（撮影メニュー）

2ページあるうちの
1ページ目です

- 撮影モードでは、設定後OKボタンを押さずにそのまま撮影できます。設定は再度メニューボタンを押すまで有効です。
- 設定後OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、各設定は無効となり、メニューモードから抜けます。
- メニューの「設定値」で「ホールド」を選択すれば、電源を切っても設定は解除されません。(P. 80参照)

電源を切ります

操作方法

1 バリアを軽く閉じます。

2 レンズが中に入るまで待ちます。
この時、バリアをレンズに強く押し当てないでください。

3 バリアを閉じるとコントロールパネルの表示が消え、電源は切れます。

4 フラッシュを閉じます。

5 再生モードでは、液晶モニタを消灯させると電源が切れます。

注意 ・電源を切ったり、電池の交換を行っても、撮影した画像は保存されます。

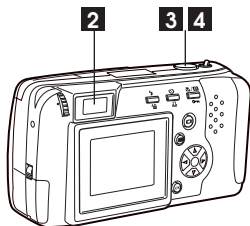
CAMEDIA

2

撮影しましょう

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

撮影のしかた

光学ファインダーを使った撮影のしかた

操作方法

1 **レンズバリアをカチッと音がするまでスライドさせます。**

2 **ファインダーをのぞき構図をきめます。**

3 **シャッターボタンを半押しすると、ピントと露出が固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。**

4 **そのままシャッターボタンを押し切ると、撮影が行われます。**

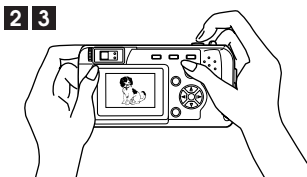
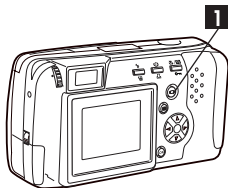
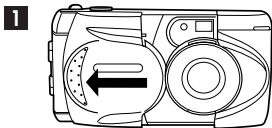
5 **「ピピッ」と音が鳴れば撮影完了です。**

6 **コントロールパネルの書込中マークとファインダー横の緑ランプの点滅が終わると、次の撮影に入れます。（書込中マークの点滅時間は画質モード等により異なりますが、約2～40秒以内に終わります。）**

書込中マークの点滅は、画像を処理していることを表しています。マークの点滅中にシャッターボタンを押してもシャッターは切れません。

- 書込中マークの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊される恐れがあります。
- 構図よりもやや広い範囲が撮影されます。

撮影のしかた（つづき）

液晶モニタを使った撮影のしかた

操作方法

1 **レンズバリアを開けてから液晶モニタON/OFFボタンを押して、液晶モニタを点灯させます。**
再度ボタンを押すとモニタは消灯します。

2 **液晶モニタを見ながら構図をきめます。**

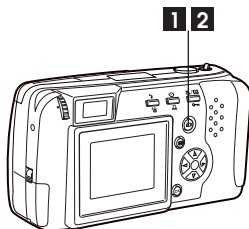
3 **ファインダーを使った撮影と同じ手順で撮影してください。(P.40参照)**

注意

- 液晶モニタの画像は構図確認のためのもので、ピント・露出等の詳細な状態を表示できるものではありません(ビューファインダーとして利用時及び、モニタ再生時共に)。特に大切なシーンの撮影では、必ずパソコンの画面で確認をしてください。
- 液晶モニタを使って撮影した場合は使わない時よりも書き込み時間が長くなります。
- 被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 晴天下のように明るい場所で撮影した時、わずかに縦スジ(スミア)が入る場合がありますが、故障ではありません。
- 液晶モニタを見ながらの撮影も可能ですが、ファインダーからのぞくほうがカメラぶれは起こりにくく、楽に撮影ができます。また、ファインダーを使用した方が電池を消耗せず、より長時間の撮影が可能となります。
- 構図よりやや広い範囲が撮影されます。

撮影のしかた（つづき）

確認再生

撮影した内容をすぐに見たいときに使用します。

操作方法

1 **レンズバリアの開いた状態で液晶モニタON/OFFボタンをすばやく2回押すと、再生モードになります。（P.81～P.97参照）**

2 **再度液晶モニタON/OFFボタンを押すかシャッターボタンを半押しすると、撮影モードに戻ります。**

シャッターボタンを押し切ると写真がとれます。

フォーカスロック

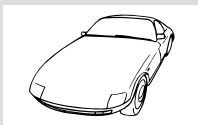
ピントを合わせたいものがオートフォーカスマークから外れる（中央にない）場合は、以下の操作でピントを合わせます。これをフォーカスロックといいます。

操作方法

1 ファインダーをのぞき、撮影したいものにオートフォーカスマークを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
同時に露出も固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図に変えて押し切ります。

ピントの合いにくいもの (オートフォーカスの苦手な被写体)

ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、以下❶～❸のような条件ではピントが合わない時があります。また、❹、❺のような被写体では、ファインダー横の緑ランプが点灯し、シャッターが切れてもピントが合っていない時があります。その場合は以下の方法またはワンタッチフォーカス（Ｐ．５８）で撮影してください。

❶コントラストのない被写体

被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P.45)した後、構図を決めて撮影してください。

❷縦線のない被写体

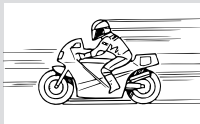
カメラを縦位置に構えてフォーカスロック(P.45)した後、構図を横にもどして撮影してください。

❸画面中央に極端に明るいものがある被写体

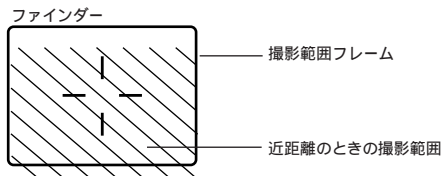
被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P.45)した後、構図を決めて撮影してください。

❹遠いものと近いものが混在する被写体

オートフォーカスして緑ランプが点灯しても撮影したい被写体がぼけているときは、同じ距離にあるものでフォーカスロック(P.45)してから構図を決めて撮影してください。

❺動きの速い被写体

あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロック(P.45)してから、構図を決めて撮影してください。

撮影距離

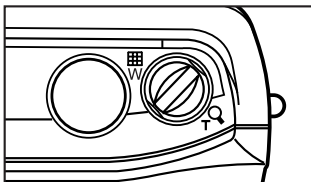
ファインダーの撮影範囲フレームは∞（無限遠）時に写る範囲ですが、撮りたいものまでの距離が近づくにつれて写る範囲が下に移動します。(ズームを望遠側へ回すと移動量は大きくなります。)

撮影は 0.2 m ～ ∞ (無限遠）の範囲で行ってください。

・0.2 mより近い距離でもシャッターは切れますが、ピントと露出が合わないことがあります。
・近距離での撮影は、液晶モニタをファインダーとして使用することをおすすめします。撮影する絵がモニタに表示されますので、撮影が容易にできます。
・液晶モニタを使用すると電池消耗が早くなります。

撮影距離

マクロモード	0.2 m ～ 0.8 m (P.55参照)
通常モード	0.8 m ～ ∞

ズーム

3倍ズームで望遠や広角撮影ができます。

ズームレバーを T 側へ引くと望遠になります。

ズームレバーを W 側へ押すと広角になります。

ファインダー

・2Xデジタルテレモードと組み合わせると、6倍ズーム相当の撮影が可能です。(P.56参照)

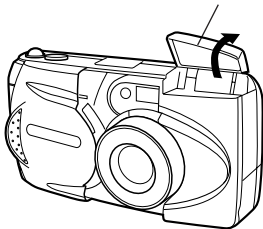
フラッシュ撮影

フラッシュの準備

フラッシュの必要な時にフラッシュが閉じていると、ファインダー横のオレンジランプが点滅します。

操作方法

1 フラッシュを使うとき、またフラッシュモードを切り替えるときは、フラッシュを上げてください。

シャッターボタンを軽く押したとき、ファインダー横のオレンジランプが点灯していればフラッシュが発光します。

フラッシュ撮影可能範囲

広角時 : 約0.2 ～ 4 m
望遠時 : 約0.2 ～ 2.6 m

モードの切り替え方

撮影状況・目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。
オート発光以外を選択すると、フラッシュモードがコントロールパネルに表示されます。

コントロールパネル

レンズバリアの開いた状態でフラッシュモード切替ボタンを押すたびに、以下のフラッシュモードに切り替わります。
フラッシュを閉じると発光禁止 (P.54)になります

設定モード	機能・目的
オート発光（表示なし）	暗い時や逆光の時、自動的に発光します。(P.52)
赤目軽減発光	目が赤く写ってしまう現象を軽減します。(P.52)
強制発光	必ず発光させたい時に。（P.53）
スローシンクロ SLOW	夜間撮影に便利です。（P.53）
赤目軽減＋スローシンクロ SLOW	夜間の人物撮影に。（P.54）

注意
- **オレンジランプが点滅している時は、フラッシュ充電中のためシャッターが切れません。いったんシャッターボタンから指をはなし、オレンジランプが消灯してから撮影してください。**
- **マクロ撮影時、画像の一部が欠けたり光量ムラが発生することがありますので、ご注意ください。撮影後は必ず液晶モニタで再生して確認して下さい。**
- **連写モード (P. 71)及びパノラマモード (P. 73)ではご使用になれません。**
- **メニューの「設定値」で「ホールド」を選択すれば、電源を切っても設定は解除されません。（P.80）**

フラッシュ撮影（つづき）

オート発光

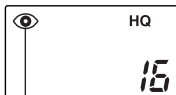
暗い時や逆光の時、フラッシュが自動的に発光します。

ファインダー

逆光自動補正マーク

逆光の被写体を撮影するときは、被写体を逆光自動補正マークに合わせて撮影してください。

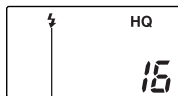
赤目軽減発光

目が赤く写る現象を軽減します。
本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外はオート発光と同じです。

赤目軽減発光マーク

注意
- **シャッターが切れるまで約１秒かかりますので、カメラをしっかり構えてください。**
- **フラッシュを正面から見ていない場合、予備発光を見ていない場合、被写体までの距離が遠い場合や、個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。**

強制発光

ϟ

必ず発光させたいときに。
強制発光モードはフラッシュを常に発光させるモードです。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときなどに使います。

強制発光マーク

・フラッシュ撮影可能範囲(P.50)内で撮影してください。
・非常に明るい状況下では効果があらわれにくくなることがあります。

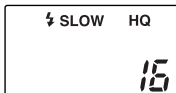
スローシンクロ

ϟ SLOW

夜景を撮影する時に。
撮影のはじめにフラッシュを発光させ、スローシャッターで周囲の状況を捉える撮影方法です。
フラッシュが必要な時に自動的に発光します。

コントロールパネル

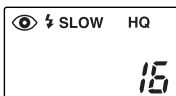
ϟ SLOW HQ

16

注意 **・シャッタースピードが最長1/2秒まで延長されますので、背景のぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。動く被写体はぶれて写ります。**

フラッシュ撮影（つづき）

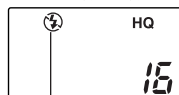
赤目軽減＋スローシンクロ　◎ ϟ SLOW

夜景をバックに人物を撮影する時に。
スローシャッターで周囲の状況を捉え、最初にフラッシュを発光させる撮影方法です。
赤目軽減発光では、人物の目が赤く写る現象を軽減します。

コントロールパネル

注意　・シャッタースピードが最長1/2秒まで延長されますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。動く被写体はぶれて写ります。

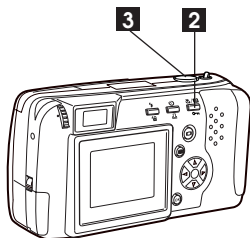
発光禁止

暗いところでも発光させたくない時に。
このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。フラッシュを使えない美術館や夕景、夜景などで撮影するときに使います。

コントロールパネル

フラッシュ発光禁止マーク

注意　・シャッタースピードが長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。動く被写体はぶれて写ります。

マクロモード

近くにあるものを撮影するときに使います。
被写体に20cmの距離まで近づいて、名刺サイズをフレームいっぱいに撮影することができます。

液晶モニタ

コントロールパネル

操作方法

1 レンズバリアを開けます。

2 マクロ・デジタルテレボタンを押すと、液晶モニタが自動的に点灯し、マクロマークが表示されます。

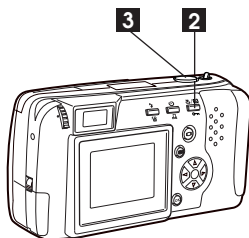
コントロールパネルにマクロマークが表示されます。

3 撮影します。

撮影距離
約0.2 〜 0.8 m

注意
- **フラッシュ使用時には影が目立つ場合があります。0.2m以内でのフラッシュの使用はお避けください。**
- **マクロモード時は、液晶モニタをファインダーとして使用することをおすすめします。**
- **電源を切ると、マクロモードは解除されます。**

2X デジタルテレモード

2倍の望遠で撮影ができます。光学3倍ズームと組み合わせると、6倍ズーム相当の撮影が可能です。

液晶モニタ

操作方法

1 レンズバリアを開けます。

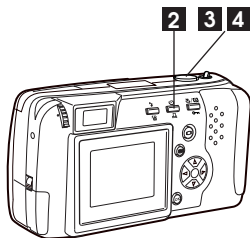
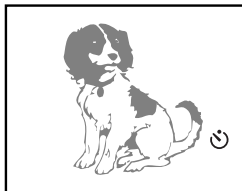
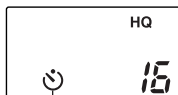
2 マクロ・デジタルテレボタンを2度押すと、液晶モニタが自動的に点灯し、デジタルマークが表示されます。

十字ボタンの▽を押すと2倍望遠になり、△を押すと1倍に戻ります。

3 撮影します。

注意
- **SQモードでのみご使用いただけます。（自動的にSQモードに設定されます。）**
- **液晶モニタをOFFにすると、設定は解除されて1倍に戻ります。**

セルフタイマー

セルフタイマーを使って撮影ができます。記念写真などを撮影する時に便利です。
カメラを三脚などにしっかりと固定させてください。

液晶モニタ

コントロールパネル

セルフタイマー

操作方法

1 レンズバリアを開けます。

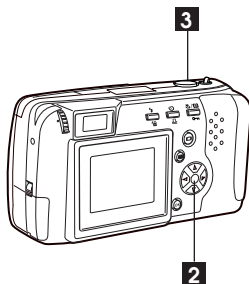
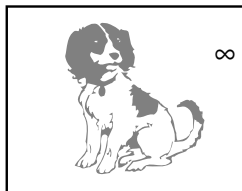
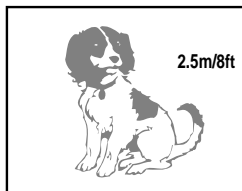
2 カメラを三脚などにしっかりと固定してからセルフタイマーボタンを押し、コントロールパネルにセルフタイマーマークを表示させます。
液晶モニタが点灯している時は、液晶モニタにもマークが表示されます。

3 シャッターボタンを軽く押して、ピントを合わせます。

4 シャッターボタンを押しきります。
カメラ本体前面のセルフタイマーシグナルが10秒間点灯し、2秒間点滅した後にシャッターが切れます。

注意
- **撮影後は、セルフタイマーモードは解除されます。**
- **作動中のセルフタイマーを途中で中止したいときはセルフタイマーボタンを再度押してください。**

ワンタッチフォーカス

被写体との距離に応じて2.5m、∞(無限遠)の撮影距離がワンタッチで選択できます。ピントの合いにくい被写体の時などに便利です。

液晶モニタ

操作方法

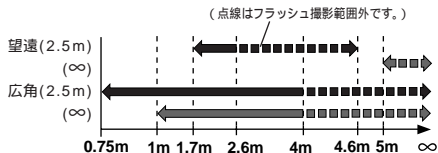
1 レンズバリアを開けます。

2 被写体距離を確認し、十字ボタンの △ または ▽ を押しながらシャッターボタンを半押しします。

△ を押すと無限遠に、▽ を押すと2.5mにピントが固定されます。

液晶モニタが点灯している時は、液晶モニタに設定が表示され、確認ができます。

3 シャッターボタンを押し切ります。

ワンタッチフォーカス合焦範囲の目安

注意

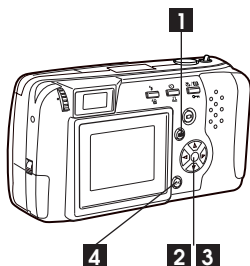
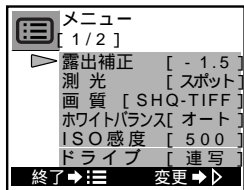
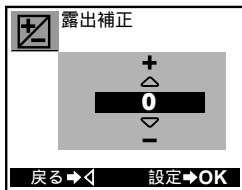
- **シャッターボタンを半押しする前に十字ボタンをはなすと、ワンタッチフォーカスにはなりません。**
- **撮影後ワンタッチフォーカスは解除されます。続けてワンタッチフォーカスで撮影する場合はその都度、設定してください。**

撮影メニュー

撮影モード(バリアを開けた状態)でメニューボタンを押すと、液晶モニタに撮影メニューが表示され、以下の設定ができます。(P.35)

設定モード	機能・目的
露出補正	＋／－2段の補正が可能です。(P.61)
測光	写したいものにピントと露出を合わせます。(P.63)
画質	SQ標準/SQ高画質/HQ/SHQ/SHQ-TIFFを設定。(P.65)
ホワイトバランス	オート/晴天/曇天/電球/蛍光灯に対応。(P.67)
ISO感度	感度を設定。（P.69）
ドライブ	連写をする時に。(P. 71)
カード機能	パノラマモード(P. 73)及び機能付スマートメディア使用時に。
シャープネス	鮮鋭度を設定。(P.75)
ファイル名メモリー	ファイルネームの記憶方法を設定。（P.76）
ビープ音	ビープ音のON/OFFを設定。(P.79)
設定値	電源を切っても各設定を保持したい時に。(P.80)

露出補正

露出は撮影時に自動的にセットされますが、＋/－２段で約0.5段刻みの補正が可能です。
白の多い被写体には＋の、黒の多い被写体には－の補正を入れると効果的です。

液晶モニタ（撮影メニュー）

液晶モニタ（露出補正設定画面）

操作方法

1 **レンズバリアを開けてメニューボタンを押し、撮影メニューを表示させます。**

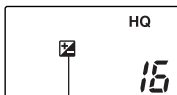
2 **十字ボタンの△ ▽を押して「露出補正」を選択し、▷を押すと、露出補正設定画面が表示されます。**

3 **十字ボタンの△ ▽を押して補正値を選択します。**

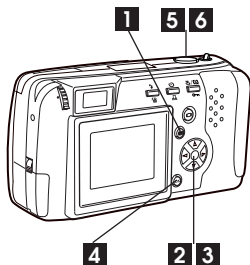
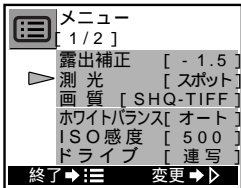
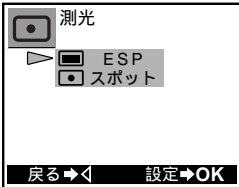
4 **OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。**

OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。
0以外の設定をすると、コントロールパネルに露出補正マークが表示されます。

露出補正（つづき）

注意

- **メニューの「設定値」で「ホールド」を選択すれば、電源を切っても設定は解除されませんが、電池を抜くと初期値に戻ります。（P.80）**
- **露出補正をすると液晶モニタの明るさも変わりますが、うす暗い被写体では変化しにくくなります。その時は撮影画像を再生してご確認ください。**
- **フラッシュ撮影時は狙いどおりの補正ができない場合があります。**

スポット測光モード

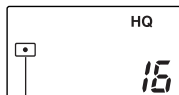
このカメラではデジタルESP測光とスポット測光の2種類の測光方法があり、あらかじめデジタルESP測光の測光方法に設定されています。
デジタルESP測光では構図の中央部と周辺部を別々に測光し、最適な露出を選択します。
スポット測光では中央部のみを測光するため、逆光などで被写体が暗くなる時に背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露光で撮影できます。

液晶モニタ（撮影メニュー）

液晶モニタ（測光モード設定画面）

操作方法

1 レンズバリアを開けてメニューボタンを押し、撮影メニューを表示させます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「測光」を選択し、 ▷ を押すと、測光モード設定画面が表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押してスポット測光モードを選択します。

スポット測光モード（つづき）

コントロールパネル

スポット測光マーク

ファインダー

4 OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。

コントロールパネルにスポット測光マークが表示されます。
OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

5 写したいものにオートフォーカスマークの中央部を合わせ、シャッターボタンを軽く押します。

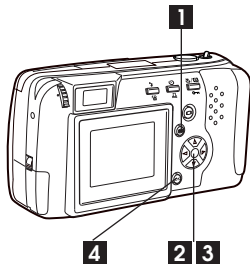
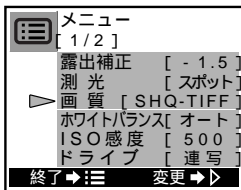
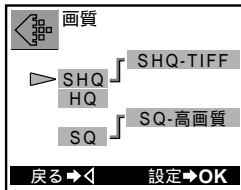
緑ランプが点灯しオートフォーカスマーク中央部にピントと露出が固定されます。

6 シャッターボタンを軽く押したまま写したい構図に変えて押し切ります。

注意 ・メニューの「設定値」で「ホールド」を選択すれば、電源を切っても設定は解除されませんが、電池を抜くと初期値に戻ります。（P.80）

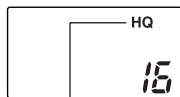
撮影しましょう

画質モードの設定

撮影する画像の画質（クォリティ）を選択します。
画質の種類は「SHQ（TIFF)」「SHQ」「HQ」「SQ高画質」「SQ標準」の5種類があります。画質は「SQ標準」→「SHQ（TIFF)」の順に高画質になります。

液晶モニタ（撮影メニュー）

液晶モニタ（画質モード設定画面）

操作方法

1 **レンズバリアを開けてメニューボタンを押し、撮影メニューを表示させます。**

2 **十字ボタンの△ ▽を押して「画質」を選択し、▷を押すと、画質モード設定画面が表示されます。**

3 **十字ボタンの△ ▽を押して画質モードを選択します。**

画質モードの設定（つづき）

4 OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。

OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

TIFF及びSQ高画質に設定するには、それぞれSHQ、SQのところで十字ボタンの △ を約2秒間押します。

コントロールパネルに画質モードが表示されます。（TIFFはSHQが点滅し、SQ高画質はSQが点滅します。）

画質モード　HQ/SHQ (JPEG/TIFF)

記録画素数	1280 X 960ピクセル

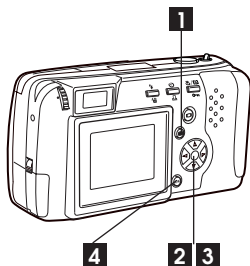
画質モード　SQ (標準／高画質)

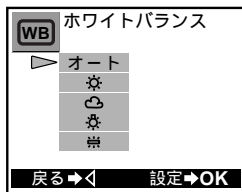
記録画素数	640 X 480ピクセル

注意

- **画質の設定によって撮影可能枚数が変わります。(P.32参照)**
- **HQとSHQの記録画素数は共に同じですが、SHQの方が圧縮率が低いため、引き伸ばしたときの画像がきれいです。また、SHQの方が記録・再生時間がやや長くなります。**
- **SQ高画質はSQ標準よりも圧縮率の低いモードです。**
- **TIFFは画像を圧縮せずに記録するため、記録・再生時間が極端に長くなり、撮影可能枚数が少なくなりますのでご注意ください。**
- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

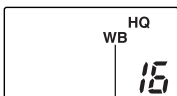
ホワイトバランス

オートでは思い通りの仕上がりになりにくい光源の時などは、晴天 ☼ 、曇天 ☁、電球 ☼ 、蛍光灯 ≡ の各モードを選ぶ事により、より良い仕上がりになります。

液晶モニタ（撮影メニュー）

液晶モニタ（ホワイトバランス設定画面）

操作方法

1 **レンズバリアを開けてメニューボタンを押し、撮影メニューを表示させます。**

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「ホワイトバランス」を選択し、▷ を押すと、ホワイトバランス設定画面が表示されます。**

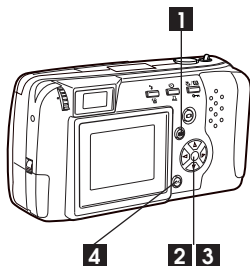
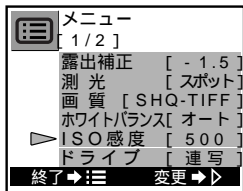
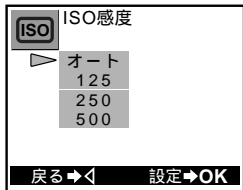
3 **十字ボタンの △ ▽ を押してホワイトバランスを選択します。**

ホワイトバランス（つづき）

4 OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。

OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。
オート以外の設定をすると、コントロールパネルにホワイトバランスマークが表示されます。

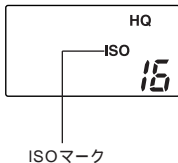
注意
- **通常はオートに設定してお使いください。**
- **特殊な光源下では対応できない場合があります。**
- **メニューの「設定値」で「ホールド」を選択すれば、電源を切っても設定は解除されませんが、電池を抜くと初期値に戻ります。****（P.80）**
- **色の確認は必ず液晶モニタで画像を再生して行ってください。**

ISO感度の設定

感度を選択できます。
感度が高くなるほど、速いシャッタースピード及び低照度下での撮影が可能になります。

液晶モニタ（撮影メニュー）

液晶モニタ（ISO感度設定画面）

操作方法

1 **レンズバリアを開けてメニューボタンを押し、撮影メニューを表示させます。**

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「ISO感度」を選択し、▷ を押すと、ISO感度設定画面が表示されます。**

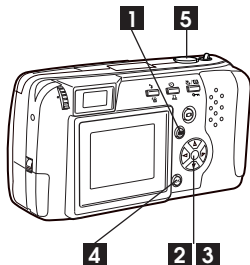
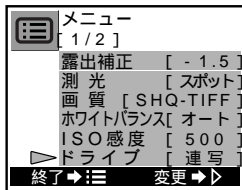
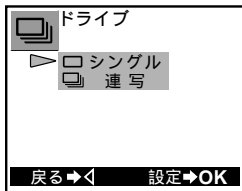
3 **十字ボタンの △ ▽ を押してISO感度設定を選択します。**

ISO感度の設定（つづき）

4 OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。

OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。
オート以外の設定をすると、コントロールパネルにISOマークが表示されます。

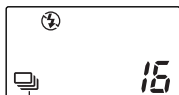
注意
- **感度は銀塩写真のフィルムの感度を基準に設定していますが、数値は目安です。**
- **オートを選択した時、暗い所でフラッシュ不使用の場合は、手ぶれ防止のため自動的に感度が上がります。**
- **感度を上げると画像が粗くなります。**
- **メニューの「設定値」で「ホールド」を選択すれば、電源を切っても設定は解除されませんが、電池を抜くと初期値に戻ります。（P.80）**

連写モード

連続撮影したい時に使います。

液晶モニタ（撮影メニュー）

液晶モニタ（連写モード設定画面）

操作方法

1 **レンズバリアを開けてメニューボタンを押し、撮影メニューを表示させます。**

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「ドライブ」を選択し、 ▷ を押すと、連写モード設定画面が表示されます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して連写を選択します。**

連写モード（つづき）

4 OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。

OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

コントロールパネルに連写マークが表示されます。

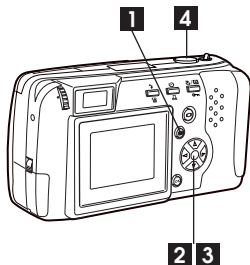
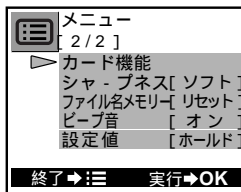
5 シャッターボタンを押している間、連写ができます。シャッターボタンをはなすと、連写が止まります。

連写枚数は最大10コマです。

注意

- **連写モードでは、フラッシュはご使用になれません。（自動的に発光禁止になります。）**
- **SQモードでのみご使用いただけます。（自動的にSQモードに設定されます。）**
- **シャッタースピードはカメラぶれを抑えるため最長1／30秒に設定されているため、暗い被写体では通常より暗く写る場合があります。**
- **電源を切ると、連写モードは解除されてシングルに戻ります。**
- **撮影後、画像の記録に最長約10秒かかります。**

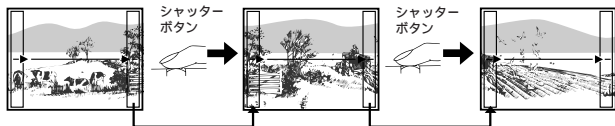
パノラマモード

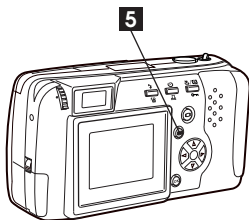
オリンパスの標準スマートメディア(カード)にはパノラマモードが付いており、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。
被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を別売のCAMEDIA Master 1.2でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成します。

液晶モニタ（撮影メニュー）

操作方法

1 **レンズバリアを開けてメニューボタンを押し、撮影メニューを表示させます。**

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「カード機能」を選択し、▷ を押すと、パノラマモード設定画面が表示されます。**

3 **十字ボタンでつなげる方向を上下左右4方向に指定します。**
モニタ画面に表示が出ます。

4 **被写体の端が重なるようにして撮影します。**
最大10枚までのパノラマ撮影が可能です。

前に撮影した画像の右端(左回りの時は左端)に重なるように撮影してください

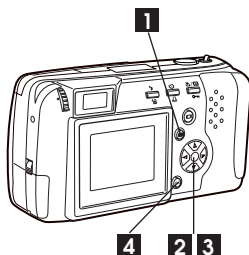
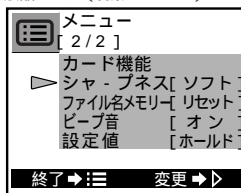
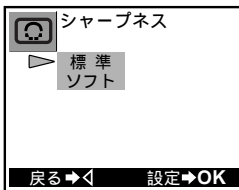
パノラマモード（つづき）

5 終了するには再びメニューボタンを押してください。

6 CAMEDIA Master 1.2（別売）を使って画像をつなぎ合わせます。

注意

- 標準カード以外のカードでは、パノラマモードは使えません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は別売のCAMEDIA Master　1.2をご使用ください。
- ピント・露出・ホワイトバランスとも1枚目で決定されます。1枚目に太陽を入れた撮影などをしないでください。
- HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影を行うとパソコンのメモリ不足になることがありますので、SQモードでの撮影をおすすめします。
- パノラマモードでは、フラッシュはご使用になれません。
- TIFF(非圧縮)でパノラマ撮影をすると、JPEG(圧縮)で記録されます。

シャープネス（鮮鋭度）

シャープネス（鮮鋭度）を設定します。「標準」は画像の輪郭がシャープです。プリントなどの鑑賞用に適しています。「ソフト」は画像の輪郭がソフトです。加工するときなどに適しています。状況に応じて使い分けてください。

液晶モニタ（撮影メニュー）

液晶モニタ（シャープネス設定画面）

操作方法

1 **レンズバリアを開けてメニューボタンを押し、撮影メニューを表示させます。**

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「シャープネス」を選択し、▷ を押すと、シャープネス設定画面が表示されます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して鮮鋭度を選択します。**

4 **OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。**

OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

注意 **・メニューの「設定値」で「ホールド」を選択すれば、電源を切っても設定は解除されません。（P.80）**

ファイル名の設定

画像ファイル名の記憶方法を選択できます。「オート」にするとパソコンに画像を取り込んだ時ファイル名が重複せず、ファイル管理できます。

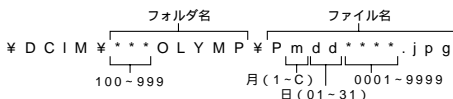
フォルダ名、ファイル名について

記録される画像のファイル名、フォルダ名はそれぞれファイルNo.:0001～9999、フォルダNo.:100～999の間でカメラ内部で自動的に生成されます。ここではそれぞれの設定を「リセット」と「オート」から選択できます。

記録される画像にはフォルダ名、ファイル名が次のように付けられます。

フォルダ名　ファイル名

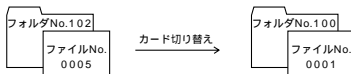
\DCIM***OLYMP\Pmdd****.jpg

100～999　月（1～C）　日（01～31）　0001～9999

※ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

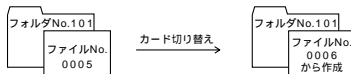
各モードでのフォルダ名、ファイル名の付け方

●リセット

カードを入れ替えたときに、フォルダNo.、ファイルNo.共にリセットされます。

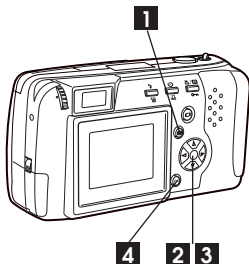
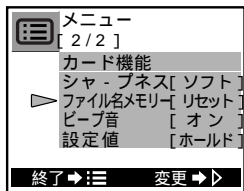
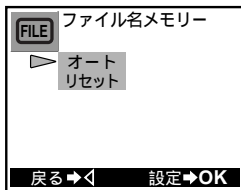
(例)

●オート

カードを入れ替えたときに、フォルダNo.はそのままで、ファイルNo.が前に使っていたカードに記録されていたNo.の続きの番号になります。

(例)

パソコンに画像単位でコピーするときに複数のカードにまたがって大量に撮影をしても、ファイルNo.が重複しません。ただし9999枚以上撮影すると0001に戻ります。

・パソコンに画像をコピーした場合、コピー元のフォルダ名と、コピー先のフォルダ名は同じフォルダ名になり、管理がしやすくなります。

\DCIMY\XXXOLYMP\PmddXXXX.jpg

コピー元と同じフォルダ名になる。

液晶モニタ（撮影メニュー）

液晶モニタ（ファイル名メモリー設定画面）

操作方法

1 レンズバリアを開けてメニューボタンを押し、撮影メニューを表示させます。

2 十字ボタンの△ ▽を押して「ファイル名メモリー」を選択し、▷を押すと、ファイル名メモリー設定画面が表示されます。

3 十字ボタンの△ ▽を押して「オート」か「リセット」かを選択します。

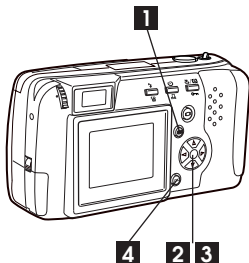
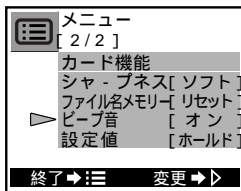
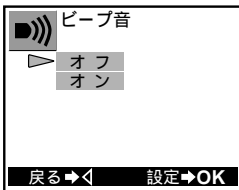
4 OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。

OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

ファイル名の設定（つづき）

- 最終ファイル名よりも大きいファイル名を持つカードを入れた場合は、そのファイル名から続けて加算されます。
- 最大ファイル名（9999）に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり、撮影はできません。
- 電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

ビープ音の設定

警告音などのビープ音を鳴らすか鳴らさない（結婚式や生物の撮影時など）かを設定します。

液晶モニタ（撮影メニュー）

液晶モニタ（ビープ音設定画面）

操作方法

1 レンズバリアを開けてメニューボタンを押し、撮影メニューを表示させせます。

2 十字ボタンの△ ▽を押して「ビープ音」を選択し、▷を押すと、ビープ音設定画面が表示されます。

3 十字ボタンの△ ▽を押して「オフ」か「オン」かを選択します。

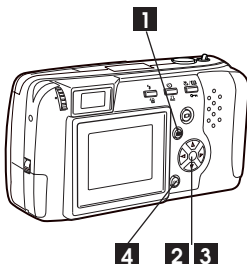
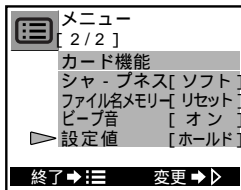
4 OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。

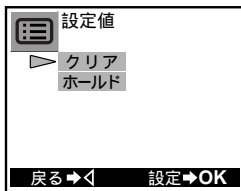
OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

撮影しましょう

注意 ・電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

設定値

「ホールド」に設定すると、お好みの設定をいつまでも保存させることが出来ます。

液晶モニタ（撮影メニュー）

液晶モニタ（設定値設定画面）

操作方法

1 レンズバリアを開けてメニューボタンを押し、撮影メニューを表示させます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「設定値」を選択し、 ▷ を押すと、設定値設定画面が表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して「クリア」か「ホールド」かを選択します。

4 OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。

OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

「クリア」を選択すると電源を切った時初期設定に戻る項目

- 赤目軽減発光以外のフラッシュモード (P. 51)
- 露出補正 (P. 61)
- スポット測光モード (P. 63)
- ホワイトバランス (P. 67)
- ISO感度 (P. 69)
- シャープネス（P.75）
- 設定値 (P. 80)

注意 ・「ホールド」に設定しても、電池を抜くと露出補正（P.61）、測光モード（P.63）、ホワイトバランス（P.67）、ISO感度（P.69）、シャープネス（P.75）の設定は解除されて初期値に戻ります。

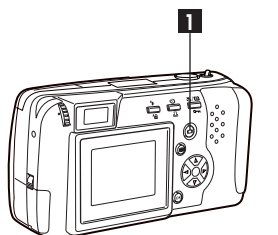
CAMEDIA

3

液晶モニタで再生しましょう

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

1コマ再生します

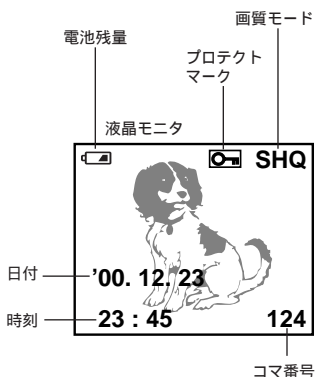
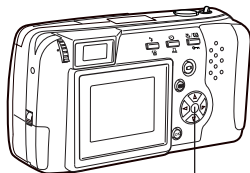
液晶モニタに1コマだけ画像を表示します。

操作方法

1 レンズバリアを閉じた状態で液晶モニタON/OFFボタンを押すと、再生モードとなり、液晶モニタが点灯します。

再生モードで電源が入ると、自動的にカードチェックが行われます。カードが入っていない時／カードに問題がある時は、コントロールパネルのカード警告マークが点滅します。

フォーマットが異なるカードが入っている時は、自動的に初期化モードに入ります。(P.94参照)

2 撮影された最新の画像が表示されます。

一枚も撮影されていない場合は、液晶モニタに「画像が記録されていません」の表示が出ます。

液晶モニタには画像の他に、コマ番号、電池残量マーク、画質モードが表示されます。また設定を行っている場合は、プロテクト、日時、プリント予約も同様に表示されます。
電池残量が残り少ない場合は、電池残量警告のマークが点滅します。

3 十字ボタンの◁ ▷ △ ▽を押して、画像を選択します。

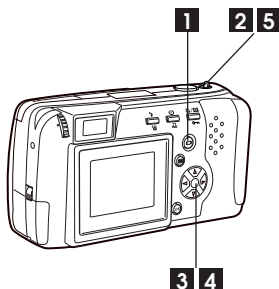
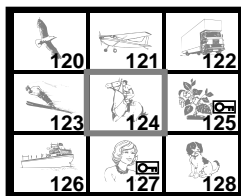
◁：1コマ前の画像を表示します。
▷：次の画像を表示します。
△：10コマ前の画像を表示します。
▽：10コマ先の画像を表示します。

注意
- **電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、0.5～2秒程してから画像が表示されるのは故障ではありません。**
- **液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。**

インデックス再生します

画像をインデックス表示させることができます。画像を探す時に便利です。

液晶モニタ

操作方法

1 レンズバリアを閉じて液晶モニタON/OFFボタンを押し、モニタ画面を表示させます。

2 ズームレバーをW側に押すとインデックスディスプレイモードになり、表示中の画像を含む複数の画像が表示されます。

再生に2秒程時間がかかります。

3 十字ボタンの◁ ▷を押して選択枠を移動させることができます。

◁: 左へコマ移動します。

▷: 右へコマ移動します。

4 十字ボタンの△を押すと、画面左上の画像のひとつ前の画像を含む複数の画像が表示されます。十字ボタンの▽を押すと、画面右下の画像の次の画像を含む複数の画像が表示されます。

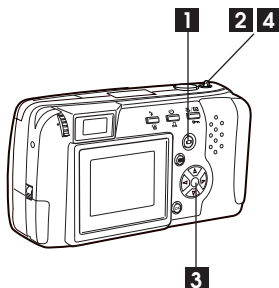
5 ズームレバーをT側に引くと、選択されている画像が1コマ再生されます。

・表示コマ数は4、9、16コマの中から選べます。(P.96参照)

拡大(クローズアップ)再生します

画像を拡大して表示させることができます。

液晶モニタ

操作方法

1 **レンズバリアを閉じて液晶モニタON/OFFボタンを押し、液晶モニタに拡大したい画像を表示させます。**

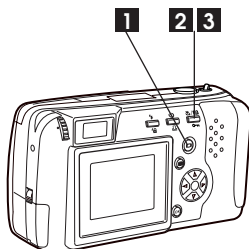
2 **ズームレバーをT側に引くと、モニタに表示されている画像が1.5倍に拡大表示されます。さらにズームレバーをT側に引くたびに、2倍、2.5倍、3倍に切り替わります。**

ズームレバーをW側に押すと、1倍に戻ります。

3 **十字ボタンを使って、選択範囲をスクロールさせることが出来ます。**

4 **選択画像を変えるには、ズームレバーをW側に押し、1倍表示に戻ってコマ送りをしてください。**

画像のプロテクト

残しておきたい画像にプロテクト(消去禁止)をかけます。

操作方法

1 レンズバリアを閉じて液晶モニタON/OFFボタンを押し、液晶モニタに残しておきたい画像を表示させます。

2 プロテクトボタンを押し、その画像にプロテクト（消去禁止）をかけます。

プロテクトマークが画面右上に表示されます。

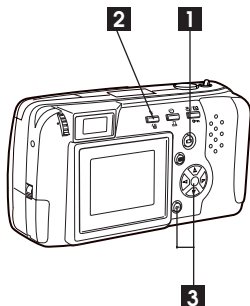
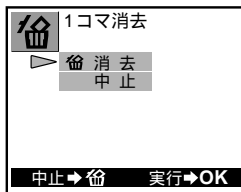
3 プロテクトを解除するには、再度プロテクトボタンを押します。

インデックスディスプレイモード（P.84）でもプロテクトの設定、解除ができます。

注意

- **プロテクトされた画像は1コマ消去／全コマ消去しても消されることはありませんが、初期化すると消滅します。**
- **ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクト操作は一切できません。**
- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

画像の1コマ消去

消したい画像にプロテクトがかかっている場合及びカードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、消去モードには入りません。消去するにはプロテクトを解除するかライトプロテクトシールをはがしてから操作を行ってください。（ライトプロテクトシールは再使用しないでください。）

液晶モニタ（1コマ消去確認画面）

操作方法

1 レンズバリアを閉じて液晶モニタON/OFFボタンを押し、液晶モニタに消したい画像を表示させます。

2 消去ボタンを押すと、確認画面が表示されます。

ここでもう一度消去ボタンを押すと、1コマ消去モードを中止することができます。

3 十字ボタンの△ ▽を押して「消去」を選択し、OKボタンを押します。

「ピッ」という音がして画像が消去されます。

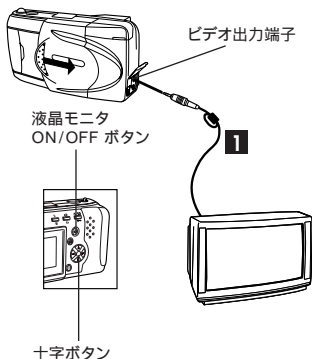
インデックスディスプレイモード(P.84)でも1コマ消去できます。

画像の全コマ消去はP.92をご覧ください。

カード予約(P.103)が設定されているカードは消去時間が長くなる場合がありますが、故障ではありません。

注意 ・**消去中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ／電池やカードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがありますので十分ご注意ください。**

テレビ画面で再生します

同梱のビデオケーブルでテレビに接続すると、パソコンがなくても大きな画面で画像を確認できます。

操作方法

接続の前に、テレビとカメラの電源が切れていて、カメラのレンズバリアが閉じていることを確認してください。

1 ビデオケーブルをカメラのビデオ出力端子とテレビの入力端子に差し込んでつなげます。

2 テレビの電源を入れて、「ビデオ入力」に設定します。
テレビの取扱説明書をお読みください。

3 カメラの液晶モニタON/OFFボタンを押して電源を入れます。

4 十字ボタンで画像を選択します。

注意

- **テレビに接続すると、カメラの液晶モニタは消灯します。**
- **テレビの調整により、画像が画面中央からずれることがありますが、故障ではありません。**
- **ご使用のテレビによっては画像の外側に黒枠が表示されることがあります。このような状態でテレビからビデオプリンタに出力すると黒枠が目立つことがあります。**
- **ACアダプタ(別売)の使用をおすすめします。**

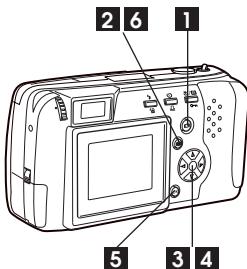
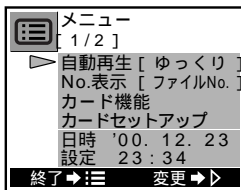
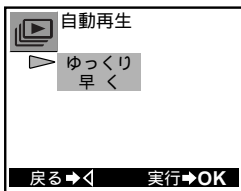
再生メニュー

再生モード（バリアを閉じた状態）でメニューボタンを押すと、液晶モニタに再生メニューが表示され、以下の設定ができます。(P.35参照)

設定モード	機能・目的
自動再生	画像を順送りして見られます。(P.90)
No.表示	画像のファイル番号を表示します。（P.91）
カード機能	機能付きカード使用時に。
カードセットアップ	全コマ消去（P.92）及び初期化時（P.94）に。
日時設定	日時を設定します。（P.27）
インデックス表示	インデックス再生時の表示コマ数を設定します。（P.96）
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調節します。（P.97）

自動再生モード

撮った画像を自動的に順送りして見ることができます。

液晶モニタ（再生メニュー）

液晶モニタ（自動再生設定画面）

操作方法

1 **レンズバリアを閉じて液晶モニタON/OFFボタンを押し、モニタ画面を表示させます。**

2 **メニューボタンを押して、液晶モニタにメニューを表示させます。**

3 **十字ボタンの△ ▽を押して「自動再生」を選択し、▷を押すと、自動再生設定画面が表示されます。**

4 **十字ボタンの △ ▽ を押して速度を選択します。**

5 **OKボタンを押すと自動再生が始まります。**

「ゆっくり」を選択すると画面表示をしてから約15秒で次の画面が表示され「早く」の場合は約2秒で表示されます。

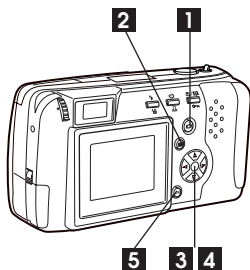
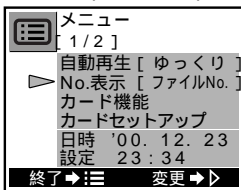
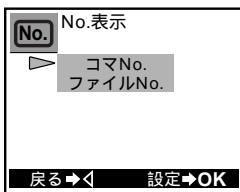
インデックスディスプレイモード(P.84)でも自動再生が可能です。

OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

6 **メニューボタンを押すと自動再生が終了します。**

注意 **・自動再生は一巡しても止まりません。メニューボタンを押して終了させてください。（30分程で自動的に電源が切れます。）**

ファイル番号表示

液晶モニタにコマ番号を表示させるかファイル番号を表示させるかを選択できます。

液晶モニタ（再生メニュー）

液晶モニタ（ファイル番号表示設定画面）

操作方法

1 **レンズバリアを閉じて液晶モニタON/OFFボタンを押し、モニタ画面を表示させます。**

2 **メニューボタンを押して、液晶モニタにメニューを表示させます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「No.表示」を選択し、▷ を押すと、ファイル番号表示設定画面が表示されます。**

4 **十字ボタンの △ ▽ を押してコマNo.表示かファイルNo.表示かを選択します。**

5 **OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。**

OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

電源を切るとコマNo.表示に戻ります。

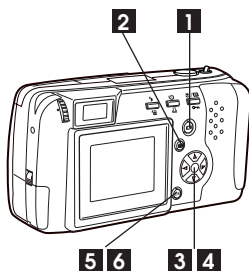
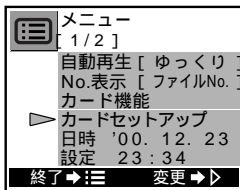
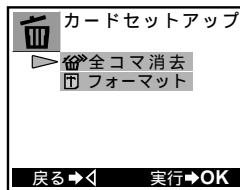
注意

- **ファイルNo.を表示している時は、コマNo.、日時は表示されません。**
- **ファイルNo.表示に設定しても、インデックスディスプレイモードではコマNo.表示になります。**
- **電源を切るとコマNo.表示に戻ります。**

カードセットアップ

画像の全コマ消去及びカードの初期化を行います。

画像の全コマ消去

消したい画像にプロテクトがかかっている場合及びカードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、消去できません。消去するにはプロテクトを解除するかライトプロテクトシールをはがしてから操作を行ってください。（ライトプロテクトシールは再使用しないでください。）

液晶モニタ（再生メニュー）

液晶モニタ（カードセットアップ画面）

操作方法

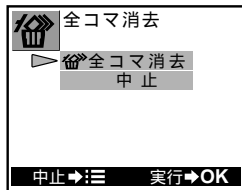
1 **レンズバリアを閉じて液晶モニタON/OFFボタンを押し、モニタ画面を表示させます。**

2 **メニューボタンを押して、液晶モニタにメニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「カードセットアップ」を選択し、▷ を押すと、カードセットアップ設定画面が表示されます。**

4 **十字ボタンの △ ▽ を押して「全コマ消去」を選択します。**

5 **OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。**

液晶モニタ（全コマ消去画面）

6 全コマ消去画面で再び「全コマ消去」を選択してOKボタンを押すと、全コマ消去が始まります。

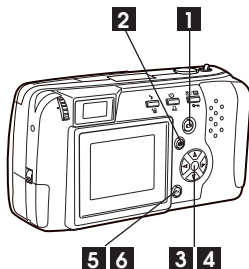
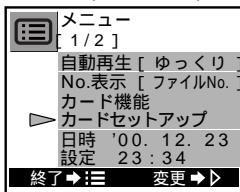
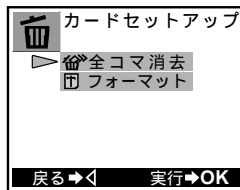
カード内の画像が全部消去されると、液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。
プロテクトのかかっているコマがあればそのコマは残り、全コマ消去後画面に表示されます。
インデックスディスプレイモード(P.84)でも全コマ消去ができます。

注意
- **誤って大切なデータを消してしまうことのないよう、十分ご注意ください。**
- **消去中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ／電池やカードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがありますので十分ご注意ください。**

カードセットアップ（つづき）

カードの初期化

初期化とはカードをカメラで書き込みできるフォーマットに変えることです。初期化済みのオリンパス製カードのご使用をおすすめします。初期化が必要なカードを入れた場合は、コントロールパネルにカード警告マークが点灯し、自動的に初期化モードに入ります。

液晶モニタ（再生メニュー）

液晶モニタ（カードセットアップ画面）

操作方法

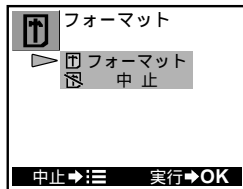
1 **レンズバリアを閉じて液晶モニタON/OFFボタンを押し、モニタ画面を表示させます。**

2 **メニューボタンを押して、液晶モニタにメニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「カードセットアップ」を選択し、▷ を押すと、カードセットアップ設定画面が表示されます。**

4 **十字ボタンの △ ▽ を押して「フォーマット」を選択します。**

5 **OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。**

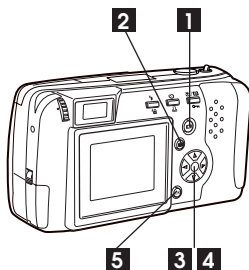
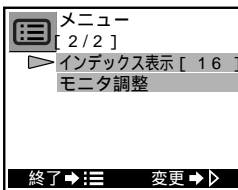
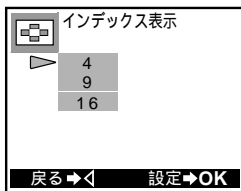
液晶モニタ（フォーマット画面）

6 フォーマット画面で再びフォーマットを選択してOKボタンを押すと、初期化が始まります。（カード警告マークが点滅します。）

初期化が終了するとカード警告マークが消灯し、「画像が記録されていません」と表示されます。

注意

- **画像を確認してからの初期化をおすすめします。**
- **初期化するとプロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消滅します。使用済みカードを初期化する時には、大切なデータを消さない様にご確認ください。**
- **オリンパス製以外のカード及びパソコンで初期化あるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときはカメラで再度初期化を行うことをおすすめします。**
- **カードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、初期化を受け付けません。**

インデックスディスプレイの表示コマ数設定

インデックスディスプレイモードでの表示コマ数を設定します。

液晶モニタ（再生メニュー）

液晶モニタ（インデックス表示設定画面）

操作方法

1 **レンズバリアを閉じて液晶モニタON/OFFボタンを押し、モニタ画面を表示させます。**

2 **メニューボタンを押して、液晶モニタにメニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの△ ▽を押して「インデックス表示」を選択し、▷を押すと、インデックス表示設定画面が表示されます。**

4 **十字ボタンの△ ▽を押して分割数を選択します。**

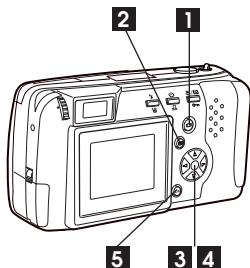
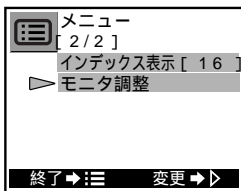
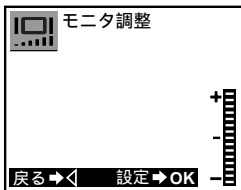
5 **OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。**

OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

注意

- **16分割の時は、コマ番号は表示されません。**
- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

モニタ調節

液晶モニタの明るさを調節できます。

液晶モニタ（再生メニュー）

液晶モニタ（液晶モニタ調節画面）

操作方法

1 **レンズバリアを閉じて液晶モニタON/OFFボタンを押し、モニタ画面を表示させます。**

2 **メニューボタンを押して、液晶モニタにメニュー画面を表示させます。**

3 **十字ボタンの△ ▽を押して「モニタ調整」を選択し、▷を押すと、液晶モニタ調整設定画面が表示されます。**

4 **十字ボタンの△ ▽を押して明るさを選択します。**

5 **OKボタンを押すと設定され、再度押すとメニューモードから抜けます。**

+で明るく、−で暗くなります。
OKボタンを押さずにメニューボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

注意 **・電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

4

プリントの設定をしましょう

- 記録されている画像をプリンタでプリントできます。
- DPOF対応のプリントサービスを行っているお店などでプリントできるように予約ができます。

プリントの設定について

スマートメディアに保存されている画像を印刷して楽しむことができます。プリントには以下の方法があります。

1. スマートメディアにプリントするコマの予約や日付時刻を記録し、DPOF対応のプリンタやラボでプリントします（プリント予約）。カードに情報が記録されているので、プリンタやラボで設定をする必要がありません。（プリント予約では、枚数の設定はできません。）
2. オリンパスCAMEDIA P-330N/P-330プリンタを使うと、撮影画像の入ったスマートメディアをプリンタのカードスロットに差し込んで、簡単なボタン操作で撮影画像をプリントできます。（P.105）
   - 各種機能の設定は全てプリンタ側で行います。詳しくはプリンタの取扱説明書をお読みください。
3. パソコン接続キット（別売）を使ったデータ通信や、フロッピーディスクアダプタ（別売）、PCカードアダプタ（別売）、スマートメディア・リーダ/ライタ（別売）等でパソコンに画像を取り込み、画像のプリントが可能なソフトウェアを使って、パソコンに接続されているプリンタからプリントできます。
   - プリントの方法は、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

DPOFについて

DPOFとはデジタルカメラの自動プリント情報を記録するフォーマット（Digital Print Order Format）のことです。
撮影画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定を記録することで、DPOF対応のプリントサービスやご家庭でのプリントが行えます。

- **他のDPOF機器で設定された予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。**
- **他の機器でDPOF予約されているカードに、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、他の機器で行った予約が解除されることがあります。**
- **オリンパスデジタルプリンタP-300等、カメラに接続するプリンタはご使用になれません。**
- **プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。**

プリント予約

スマートメディアにプリントしたい画像の予約情報を記録します。DPOF対応のプリントサービスを行っているお店でプリントできます。

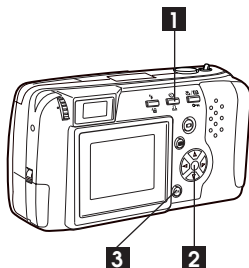
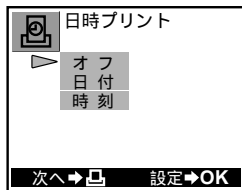
プリント予約メニュー

再生モード（レンズバリアを閉じた状態）でプリントボタンを押すと、液晶モニタにプリント予約メニューが表示され、以下の設定ができます。
（P. 35参照）

設定モード	機能・目的
標準再生	画像を静止表示します。
日時プリント	DPOF対応の日付入りプリント予約。 プリントに日付又は時刻を入れます。 （P.102）
カード予約	DPOF対応のプリント予約。 プリントする画像を選択します。（P.103）

プリント予約（つづき）

日時プリント予約

プリント予約された画像に撮影した日付を入れる指示を書き込み、DPOF規格に対応したプリンタ又はラボでプリントすることができます。

液晶モニタ（日時プリント設定画面）

操作方法

1 レンズバリアを閉じ、モニタ画面を表示させた状態でプリントボタンを押すと、液晶モニタに図のような日時プリント設定画面が表示されます。

2 十字ボタンの△ ▽を押して、プリントに日付を入れるか時刻を入れるかどちらも入れないかを選択します。

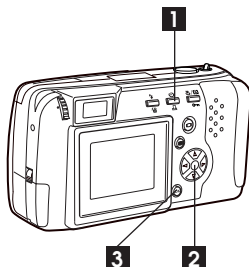
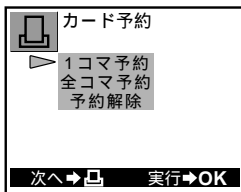
3 OKボタンを押すと、設定されて再生モードに戻ります。
プリントボタンを押すと、設定されずに次の設定画面になります。
途中で液晶モニタON/OFFボタンを押すと、設定されずに画面が消えます。

・あらかじめ日時を設定しておいてください。
・設定後に撮影した画像は予約されません。再度設定し直してください。
・この機能は専用プリンタP-330N/P-330ではご使用になれません。プリンタ側の機能をお使いください。
・プリント予約には時間がかかることがあります。

カードプリント予約

カード内に保存されている画像にプリントの指示を書き込み、DPOF規格に対応したプリンタ又はラボで希望の画像をプリントすることができます。

液晶モニタ(カードプリント予約設定画面)

操作方法

1 レンズバリアを閉じ、モニタ画面を表示させた状態でプリントボタンを押して行き、カード予約を選択します。

2 十字ボタンの△ ▽で、全コマプリントする場合は全コマ予約を、1コマプリントする場合は1コマ予約を選択します。

予約解除を選択すると、設定した予約が全て解除されます。

プリントボタンを押すと、設定されずに再生モードに戻ります。

3 全コマ予約の時は、OKボタンを押すと画面にプリントマークが表示され、全画像にプリント予約がされます。予約を1コマ毎に解除するには、十字ボタンで画像を選択してOKボタンを押し、その画像のプリントマークを消します。

◁ :1コマ前の画像を表示します。

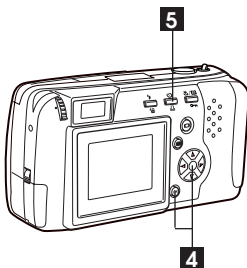
▷ :次の画像を表示します。

△ :10コマ前の画像を表示します。

▽ :10コマ先の画像を表示します。

プリント予約（つづき）

ズームレバーをW側に回すと、インデックス再生され、十字ボタンで画像を選択できます。

◁：左へコマ移動します。
▷：右へコマ移動します。
△：前の9コマを表示します。
▽：次の9コマを表示します。

4 **1コマ予約の時は、十字ボタンで画像を選択し、OKボタンを押すと画面にプリントマークが表示され、その画像にプリント予約がされます。再び押すとその画像のプリントマークが消え、予約が解除されます。画像を変えて同様に選択して行きます。**

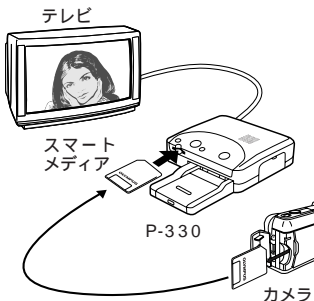
途中で液晶モニタON/OFFボタンを押すと、設定されずに画面が消えます。

5 **プリントボタンを押すと、設定されて再生モードに戻ります。**

注意

- **印刷実行後も選択データはカード内に記憶されています。新たに画像を選択する場合には、予約前にかならずカード予約解除を行ってください。**
- **予約解除を選択すると選択データはすべて消去されます。**
- **プリンタ又はラボにより、一部機能が制限されることがあります。**
- **プリント予約には時間がかかることがあります。**

スマートメディアからの印刷(専用プリンタP-330N/P-330)

専用プリンタP-330N/P-330に撮影済みのカードを直接差し込んで、ダイレクトプリントが可能です。

P-330N/P-330の主な機能

1コマプリント
マルチプリント(4、9、16分割)
予約プリント
カメラ予約(カード予約)
トリミングプリント(1.5・2倍)
日付プリント
転写プリント (左右反転)
機能カード対応 (合成テンプレート機能に対応)

※ 詳しくは専用プリンタP-330N/P-330の取扱説明書をお読みください。

注意

- **カードプリント予約を使って、プリントしたい画像を予め選択できます。(P.103)**
- **デジタルカメラのデータ入出力端子にP-330N/P-330を接続して印刷することはできません。**
- **デジタルカメラのビデオ出力端子にP-330N/P-330を接続して印刷した場合、プリンタの性能を充分に発揮することができません。**

CAMEDIA

5

パソコンで撮影画像を加工しましょう

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

撮影した画像をパソコンで加工する

市販されている画像処理ソフトを使って、撮影した写真をパソコン上で加工する方法などを紹介します。
ここでは、パソコンとの接続方法と、別売のCAMEDIA Master 1.2を使った加工方法を紹介します。

パソコンとの接続のしかた

別売のCAMEDIA Master 1.2を使うと、カメラに挿入されているカードから直接パソコンに写真を読み込むことができます。ご使用のパソコンの機種によって、接続方法が異なります。

パソコンの使用環境

パソコンに接続してお使いになる場合は、お持ちのパソコンをご確認のうえ次の条件でご使用ください (CAMEDIA Master 1.2使用の場合)。

●DOS/V機（IBM PC/AT互換機）

OS　：Windows 98/95/NT 4.0
CPU　：Pentium 以上
ハードディスクの空き容量　：30MB 以上
メモリ　：Windows 98/95：16MB 以上
Windows NT 4.0：24MB 以上
コネクタ　：標準RS-232Cインターフェイス
D-SUB 9ピンコネクタ
モニタ　：256色以上640×480ドット以上
推奨32000色以上

●Apple Macintosh

OS　：Mac OS7.6.1 ～ 9
CPU　：PowerPC以上
ハードディスクの空き容量　：30MB 以上
メモリ　：32MB 以上
コネクタ　：シリアルポート ミニDin 8ピンコネクタ
モニタ　：256色以上 640×480ドット以上
推奨32000色以上

※ iMac等、シリアルポートを装備していない機種では、カメラとの通信はできません。

パソコンとの接続のしかた（つづき）

パソコンの使用環境（つづき）

●NEC PC-9821及びPC-98-NXシリーズ

OS	：Windows 98/95/NT 4.0
CPU	：Pentium 以上
ハードディスクの空き容量	：30MB 以上
メモリ	：Windows 98/95：16MB 以上 Windows NT 4.0：24MB 以上
コネクタ	：標準RS-232Cインターフェイス (19200 bps以上の通信速度が必要) D-SUB 25ピンコネクタ
モニタ	：256色以上640×480ドット以上 推奨32000色以上

メモ　詳しくはCAMEDIA Master のオンラインマニュアルを参照してください。

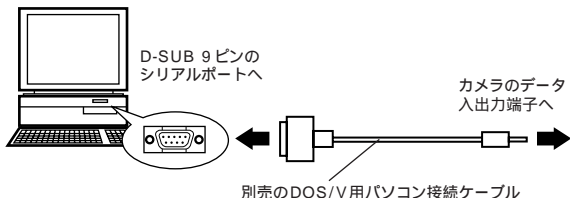
パソコンとの接続

パソコン（DOS/V機、NEC PC-9821シリーズ、Apple Macintosh）とカメラを接続します。

1 CAMEDIA Masterを、あらかじめお持ちのパソコンにインストールしておきます。
インストール方法についてはオンラインマニュアルを参照してください。

2 パソコンとカメラの電源が切れていることを確認してください。

3 パソコン側の「COM1」「COM2」などと書かれているシリアルポートに、パソコン接続ケーブルを差し込みます。

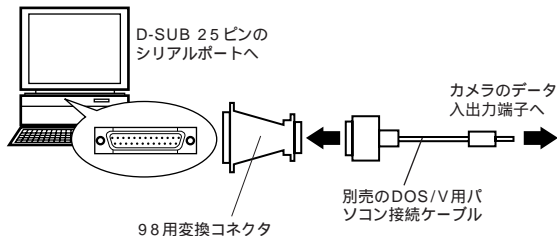
DOS/Vの場合

注意 **・PC-98ノートパソコン（14ピンの場合）には、別売の変換コネクタ（PC-9821N-K04）が必要です。**

パソコンとの接続のしかた（つづき）

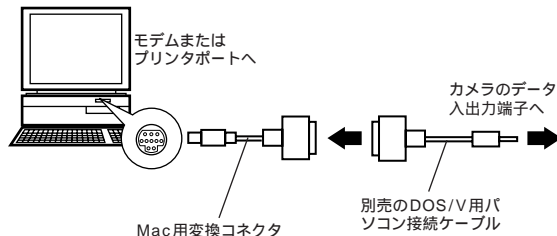
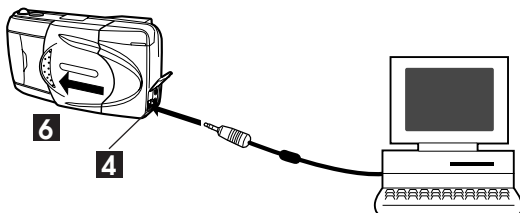
パソコンとの接続（つづき）

NEC PC-9821シリーズの場合

パソコン側の「RS-232C」と書かれたシリアルポートに、98用変換コネクタを差し込みます。

シリアルポートに差し込まれている98用変換コネクタに、DOS/V用パソコン接続ケーブルを差し込みます。

Apple Macintoshシリーズの場合

パソコン側のプリンタポートまたはモデムポートに、Macintosh用変換コネクタを接続します。

Macintosh用変換コネクタに、DOS/V用パソコン接続ケーブルを差し込みます。

4 **カメラのコネクタカバーを開けて、パソコン接続ケーブルのプラグをカメラのデータ入出力端子に差し込みます。**

5 **パソコンの電源を入れます。**

6 **カメラのレンズバリアを開けます。**

7 **CAMEDIA Masterを起動します。**

注意

- カメラの電源が入っている状態でパソコンと接続すると、カメラが正しく作動しない場合があります。パソコンと接続する時は、必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。
- パソコンに接続したときは、カメラのボタン類は一切動作しなくなります。
- バリアが閉じている時、通信はできません。
- 電池の消耗を防ぐため、ACアダプタ(別売)の使用をおすすめします。

撮影した画像をパソコンに読み込む

CAMEDIA Master 1.2で読み込む

別売のCAMEDIA Master 1.2をパソコンにインストールすると、撮影した写真をパソコンに読み込み、表示、加工、保存などを行うことができます。
操作方法については、CAMEDIA Masterのオンラインマニュアルを参照してください。

カメラとの通信
RS-232Cを介し、カメラ内画像ファイルのダウンロードを行います。また、カメラの各種設定(プロテクト設定・解除、データ消去、日付時刻の設定、その他設定変更等)もサポートしています。

画像ビューワー
カメラからダウンロードした画像、ディスク上の画像ファイルのインデックス表示、単画面表示を行います。また、エクスプローラ風のフォルダ階層表示とドラッグ&ドロップによる操作で画像の管理が簡単に行えます。更にスライドショー(自動再生)もできます。

一括処理
インデックスウィンドウから画像の回転、フォーマット変換、リネーム等の一括処理が可能です。

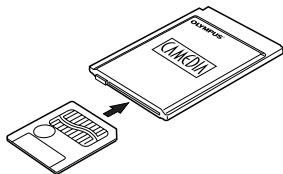
加工
回転（右90度、左90度、180度、任意角度)、色数変更、リサイズ、テキスト挿入、各種フィルター処理（明るさ、コントラスト、カラーバランス、シャープネス等）が可能です。

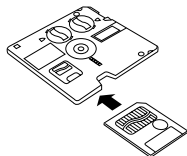
カメラ連携機能

「パノラマ合成」	標準カードのパノラマモードで撮影した画像を使用して、パノラマ合成画像が作成できます。
「テンプレート合成」	別売のテンプレートカードに、カメラで合成可能なオリジナルテンプレート画像をアップロードできます。

印刷
単画像印刷の他、単画像日付入り印刷、インデックス印刷、レイアウト印刷(3、4、6ショットを自動レイアウト)を行います。

スマートメディア用PCカードアダプタを使って読み込む

PCカードスロットまたは外付PCカードドライブがあるパソコンでは、別売のPCカードアダプタ（MA-2）を使うとスマートメディアから直接画像を読み込むことができます。

フロッピーディスクアダプタを使って読み込む

3.5インチフロッピーディスクドライブのあるパソコンでは、別売のフロッピーディスクアダプタFlashPath（MAFP-2/MAFP-2N）を使うと、直接スマートメディアから画像を読み込むことができます。

スマートメディア・リーダ/ライタを使って読み込む

Windows98およびMacintosh OS 8.6のUSB対応パソコンでは、別売のスマートメディア・リーダ/ライタ(MAUSB-2)を使うと、データの転送を簡単かつ高速に行うことができます。

注意
- **パソコンの動作環境やスマートメディアの記憶容量等により、ご使用になれない場合があります。**
- **ライトプロテクト(書き込み禁止)シールの貼ってあるカードをパソコンで使用するとエラーが多発しますので、ご使用にならないでください。(詳しくは両アダプタの取扱説明書をお読みください。)**

撮影した画像をパソコン上で見る

撮影した画像をパソコンの上で見るには、別売のCAMEDIA Master 1.2を使います。

カードに保存されている画像を見る

カメラに挿入されているスマートメディアに保存されている画像を、CAMEDIA Masterで見ることができます。

操作方法

1 パソコンにインストールしたCAMEDIA Masterを起動します。

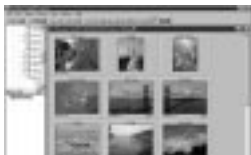
2 [マイカメラ]アイコンをクリックします。

3 保存されている画像が一覧で表示されます。

4 見たい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。
選択した画像が拡大して表示されます。

カードに保存されている画像をパソコンに読み込む

カメラに挿入されているスマートメディアに保存されている画像を、パソコンに読み込みます。

操作方法

1 パソコンにインストールしたCAMEDIA Masterを起動します。

2 メニューバーの[カメラ(C)]で[全画像のダウンロード(D)]を選択します。
カメラからパソコンに画像が読み込まれます。

メモ **パソコンに読み込んだ画像は、添付のCAMEDIA Master以外にもJPEGを扱えるグラフィックソフト（Paint Shop Pro／Photoshopなど）、インターネット閲覧ソフト（Netscape Communicator／Microsoft Internet Explorerなど）などのアプリケーションソフトウェアでも見ることができます。詳しくは対応ソフトのマニュアルを参照してください。**

撮影した画像をパソコン上で加工する

撮影した画像を別売のCAMEDIA Masterで加工することができます。
画像の色調はもちろんのこと画像を合成したりすることができます。

暗い画像を明るくする

撮影した画像を見ると、思っていたよりも暗いことがあります。撮影直後であれば再度撮影することも可能かもしれませんが、シャッターチャンスを逃すこともあります。
そんな時にはCAMEDIA Masterのワンタッチ補正を使うと、簡単に画像を明るくできます。

操作方法

1 明るくしたい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。
選択した画像が表示されます。

2 **メニューバーの[画像(I)]→[ワンタッチ補正(I)]を選択します。**
選択した画像が明るくなります。

ボケている画像を修正する

逆光などで画像全体がはっきりしない場合や被写体にピントを合わせて撮影したため、手前の物体がボケてしまう場合があります。画像を見て、「失敗」と思う前にCAMEDIA Masterのシャープネスを使ってみましょう。画像を全体的にシャープにして、ボケを和らげることができます。
ただし、完全にボケを取り除くことはできません。

ボケている画像を修正する（つづき）

操作方法

1 **加工したい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。**
選択した画像が表示されます。

2 **メニューバーの[画像(I)]→[フィルタ(F)]→[シャープネス(S)]を選択します。**

3 **オリジナルと変更後を見ながら、シャープの度合をスライドバーを動かして指定するか、数値を１～9で入力します。**

4 **加工結果が良ければ、[OK]ボタンを押します。**

選択した画像がシャープになって表示されます。

テンプレートと合成する

撮影した画像をCAMEDIA Masterに収録されているテンプレートと合成することで、簡単にシールプリントのような画像を作ることができます。

＋

＝

操作方法

1 加工したい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。
選択した画像が表示されます。

撮影した画像をパソコン上で加工する（つづき）

テンプレートと合成する（つづき）

2 メニューバーの[画像(I)]→[テンプレート合成(S)]を選択します。

合成のウインドウが表示されます。

3 合成するテンプレートを選択し、[適用]ボタンを押します。
合成されたサンプル画像が表示されます。

4 表示された画像で良ければ、[OK]ボタンを押します。
合成された画像が表示されます。

以上の機能の他にも沢山の画像を加工する機能があります。CAMEDIA Masterの各機能については、CAMEDIA Masterのオンラインヘルプをご覧ください。

CAMEDIA

6

付録

Q & A

Q 電池はどの位もちますか。

A 100コマ以上の撮影が可能です(フラッシュ50%使用時)。但しこれは一応の目安で、液晶モニタの使用時間、フラッシュの使用頻度、電池の種類、使用環境温度等によって大きく変わります。特に液晶モニタを点灯させたままにすると、電池の消耗が激しいのでこまめに電源を切るようにしてください。別売の専用ACアダプタを使用しますと電池寿命を心配しなくてすみます。なお、本書に記載されている電池による撮影枚数は、当社試験条件、当社指定の電池による参考値です。

Q 画像データに記録される日付が正しくないのですが。

A 出荷時には日付設定されておりませんので、撮影前に日付設定をしてください。(P.27) (別売のCAMEDIA Master 1.2を用いることで、パソコンからの設定もできます。）尚、カメラから電池を抜いて約1時間放置すると、設定は解除されます。

Q フィルターやフードは取り付けられますか。

A 取り付けられません。

Q 外付けフラッシュは使用できますか。

A 使用できません。またスレーブユニットも正常に動作しません。

Q フラッシュを使用し、人物撮影をしたら目が赤く写ってしまったのですが。

A どのカメラでもフラッシュを用いた人物撮影では目が赤く写ることがあります。これは網膜がフラッシュの光を反射するために起こる現象ですが、個人差が大きく、また周囲の明暗等の撮影条件によっても異なります。一般的には東洋人は出にくく、西洋人は出やすい傾向にあります。赤目軽減発光モードを使用することにより、発生頻度を大幅に軽減できます。（P.52）

Q カメラの保管はどうすれば良いのですか。

A カメラはホコリ、湿気、塩分を嫌います。よくふいて乾燥させて、保管してください。海辺で使ったあとは、真水で浸した布を硬く絞ってふき取ると良いでしょう。防虫剤の使用は避けてください。また、長期保管の場合は電池を抜いてください。

修理に出す前にお確かめください

操作上のトラブル

こんなときには		
カメラが動かない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①電源がOFFになっている。	❶レンズバリアをあけて、電源をONにしてください。	P.29
②電池の向きが正しくない。	❷電池を正しく入れ直してください。	P.23
③電池がない。	❸新しい電池を入れてください。	P.23
④寒さで電池の性能が一時的に低下した。	❹電池をポケット等で温めてから使用してください。	
⑤パワーセーブ機構が働いた。	❺レンズバリアをいったん閉めて、再度開けてください。	P.29
⑥パソコンに接続している。	❻パソコンに接続中は、カメラは動作しません。	P.113

こんなときには		
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュの充電が完了していない。または、カードに書き込み中である。	❶一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプ又は緑ランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.40 P.50
②カードに問題がある。	❷エラー表をご覧ください。	P.133
③カードの容量がいっぱいになった。	❸カードの交換を行うか、不要なコマの消去を行うか、画像をパソコンなどに転送し、全コマ消去を行ってください。	P.26 P.87 P.92 P.114
④撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	❹電池を新品と交換してください。	P.23
⑤電池残量が少なくなった。	❺電池を交換してください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P.23

付録

こんなときには		
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
⑥カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない。	❻新しいカードを入れて下さい。	P.26
⑦再生モードになっている。	❼レンズバリアを開けてください。	P.40

こんなときには		
フラッシュが発光しない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュモードが発光禁止になっている。	❶フラッシュを上げてください。(連写モード及びパノラマモードでは、フラッシュはご使用になれません。)	P.51 P.71 P.73
②明るい被写体である。	❷フラッシュを強制的に発光させたい場合は強制発光モードにしてください。	P.51

こんなときには		
液晶モニタ上で再生ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①撮影モードになっている。	❶レンズバリアを閉じて、液晶モニタON/OFF ボタンを押し、液晶モニタを点灯させてください。	P.82
②カードに画像が記録されていない。	❷液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	P.82
③カードに問題がある。	❸エラー表をご覧ください。	P.133
④テレビに接続している。	❹テレビに接続中は、液晶モニタは消灯します。	

修理に出す前にお確かめください（つづき）

こんなときには		
液晶モニタが見にくい。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①液晶モニタの輝度の設定が適切でない。	❶液晶モニタの輝度調節をしてください。	P.97
②太陽光の下である。	❷太陽の光を手などでさえぎってください。	
③液晶モニタが壊れている。	❸修理に出してください。	

こんなときには		
画像のプロテクト、１コマ消去、全コマ消去、初期化ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①カードにライトプロテクトシールが貼られている。	❶シールを剥がしてからご使用ください。シールは再使用しないでください。	

こんなときには		
パソコンとつないだとき、データ転送中にエラーメッセージが出る。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①ケーブルが正しく接続されていない。	❶正しく接続されていることを確認してください。	P.111～P.113
②カメラの電源がOFFになっている。	❷レンズバリアを開けてください。	P.29
③電池がない。	❸新しい電池を入れるか、ACアダプタ(別売)をお使いください。	P.23 P.25
④パソコンのシリアルポートが正しく設定されていない。	❹パソコンでシリアルポートが正しく設定されていることを確認してください。	

画像の出来が良くない場合

こんなときには		
ピントの合っていない写真ができた。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった。(カメラぶれ)	❶カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P.33 P.34
②ピントを合わせたいものが、オートフォーカスマークからはずれてしまった。	❷ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P.40 P.45
③レンズが汚れていた。	❸レンズをきれいにしてください。	
④使用しているモードが違っていた。	❹0.2～0.8m以内に被写体がある場合はマクロモードを使い、それ以上の場合は通常モードを使ってください。	P.48 P.55
⑤セルフタイマー撮影で、カメラの直前に立ってシャッターボタンを押した。	❺カメラの前に立たず、ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P.57
⑥フラッシュの必要な状況で、フラッシュモードが「赤目軽減発光」、「発光禁止」、「スローシンクロ」、または「赤目軽減＋スローシンクロ」になっていた。	❻シャッターが切れるまで時間がかかりますので、三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えてください。	P.52 P.53 P.54
⑦ワンタッチフォーカスで被写体距離を確認せずに撮影してしまった。	❼ワンタッチフォーカスの合焦距離範囲で撮影してください。	P.58

修理に出す前にお確かめください（つづき）

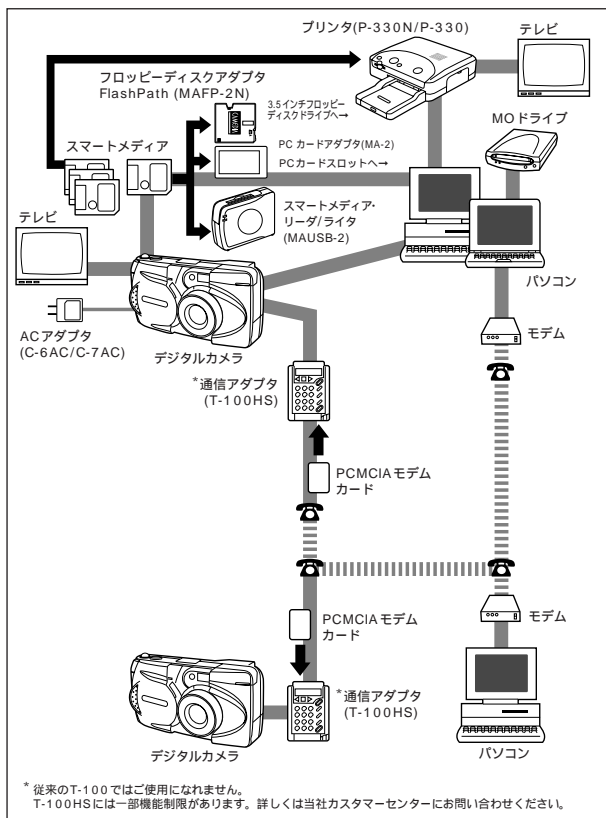
こんなときには		
できあがった画像が明るすぎる。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュモードが強制発光になっていた。	❶強制発光以外のフラッシュモードを選んでください。	P.51
②高輝度の被写体に向かって撮影した。	❷露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.61

こんなときには		
できあがった画像が暗い。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュを指などで覆ってしまった。	❶カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気を付けてください。	P.33
②撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。	❷フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。	P.50
③フラッシュモードが発光禁止になっていた。	❸フラッシュを上げてください。	P.50
④逆光状態で小さい被写体を撮影した。	❹フラッシュを強制発光にセットするか、スポット測光モードで撮影してください。	P.51 P.63
⑤連写モードで撮影した。	❺シャッタースピードが早いために、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	P.71

こんなときには		
室内で写した写真の色がおかしい。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①照明の色が影響した。	❶フラッシュのモードを強制発光にセットして撮影してください。	P.51
②被写体に白い部分がなかった。	❷画角に白い被写体を入れて撮影するか、照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.67
③ホワイトバランスの設定を間違えた。	❸照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.67

こんなときには		
画像の一部が欠けてしまった。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①レンズに指やストラップがかかってしまった。	❶カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気を付けてください。	P.33
②撮影距離が近かった。	❷液晶モニタを使ってください。	P.42

システムチャート

別売の機器とシステムを組むと、以下のことが可能です。
●通信アダプタを介してデータの伝送、PCMCIA カードへのデータ保存

＊従来のT-100ではご使用になれません。
T-100HSには一部機能制限があります。詳しくは当社カスタマーセンターにお問い合わせください。

付録

エラーコード表

このカメラでは各種の警告をエラーコードにて表示します。
（コントロールパネルの表示は点滅します。）

警告 液晶モニタ表示	エラー内容	対応
カード無し警告 [!] **カードを認識できません**	カードが入っていません。又は、認識しません。	カードを入れてください。又は、カードを入れなおして下さい。
カードフル警告 [!] **撮影可能枚数が0です**	撮影可能枚数が0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要なコマを消去して下さい。
ライトプロテクト警告 [!] **書き込み禁止になっています**	カードが書き込み禁止になっています。	撮影をする場合はプロテクトシールをはがしてください。
カードエラー警告 [!] **このカードは使用できません**	撮影・再生・消去する事が出来ません。	クリーニングペーパーでカードの端子を拭き、もう一度挿入して下さい。初期化出来ない場合、このカードはご使用になれません。

アフターサービスについて

●保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。

●本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙の当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書等にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

●保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。また運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

●当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後 8 年間を目安に当社では保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店また、お近くの当社サービスステーションにお問い合わせください。

●本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。

●本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。

別売品のご案内

●**パソコン接続キット（C-7KP）**

・CAMEDIA Master 1.2 (Macintosh、Windows 95/98/NT4.0用)

・パソコン接続用ケーブル (DOS/V用)

・変換コネクタ (Macintosh用/PC-98用)

＊PC-98ノート (14ピン) の場合は別途、変換コネクタ (PC-9821N-K04) が必要です。

●**スマートメディア(8MB/16MB/32MB/64MB)**

●**機能付スマートメディア**

・テンプレートカード (4MB/M-4T)

・カレンダーカード (4MB/M-4C)

・手書きタイトルカード (4MB/M-4N)

●**専用プリンタ (P-330N)**

●**ACアダプタ (C-7AC)**

●**ニッケル水素電池 (B-03NH16)**

●**ニッケル水素電池専用充電器 (BU-40SNH)**

●**PCカードアダプタ (MA-2)**

＊64MBスマートメディアまで対応

●**フロッピーディスクアダプタFlashPath (MAFP-2N)**

＊64MBスマートメディアまで対応

＊DOS/V: Windows 95/98/NT4.0

＊PC-9821: Windows 95(OSR2以降)/98

＊Power Macintosh: Mac OS 8.6以前(Read only)

●**スマートメディア・リーダ／ライタ (MAUSB-2)**

＊64MBスマートメディアまで対応

＊Windows 98、Mac OS 8.6用

付録

画像ファイルの互換性について

C-960ZOOMで撮影した画像を他のオリンパスデジタルカメラで再生する場合及び他のオリンパスデジタルカメラで撮影した画像をC-960ZOOMで再生する場合は、以下のような制限がありますのでご注意ください。

C-960ZOOMで撮影、他のカメラで再生

他のカメラ	液晶モニタ再生
C-21T.commu	○
C-860L	○
C-2020ZOOM	○
C-21	○
C-2500L	○
C-920ZOOM	○
C-2000ZOOM	○
C-900ZOOM (D-400ZOOM)	×
C-830L	×
C-840L(D-340L)	×
C-820L(D-320L)	×
C-420L	×
C-1400XL	×
C-1400L	×
C-1000L	×

他のカメラで撮影、C-960ZOOMで再生

他のカメラ	液晶モニタ再生
C-21T.commu	○
C-860L	○
C-2020ZOOM	○ 注1
C-21	○ 注1
C-2500L	○ 注2
C-920ZOOM	○
C-2000ZOOM	○ 注1
C-900ZOOM (D-400ZOOM)	○
C-830L	○
C-840L(D-340L)	○
C-820L(D-320L)	○
C-420L	○
C-1400XL	○
C-1400L	○
C-1000L	○

注1: 非圧縮TIFFで撮影した画像とSHQで撮影したファイルサイズの大きい画像はインデックス再生されます。

注2: ＳＱモード以外で撮影した画像はインデックス再生されます。

仕様

形式	：デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式	：デジタル記録、JPEG、TIFF非圧縮（DCF準拠）/DPOF対応
記録媒体	：3V (3.3V) スマートメディア 2MB、4MB、8MB、16MB、32MB、64MB
記録コマ数	：約2枚(SHQ-TIFFモード／8MBカード) 約18枚(SHQモード／8MBカード) 約36枚(HQモード／8MBカード) 約32枚(SQ高画質モード／8MBカード) 約122枚(SQ標準モード／8MBカード)
消去	：1コマ消去、全コマ消去
撮像素子	：1/2.7型（インチ）CCD固体撮像素子 131万画素(総画素数)
記録画素数	：1280 X 960 ピクセル (TIFF・SHQ・HQモード) 640 X 480 ピクセル (SQモード)
ホワイトバランス	：フルオートTTL、プリセット（晴天、曇天、電球、蛍光灯）
レンズ	：オリンパスレンズ 5.4～16.2mm、F2.8～4.4、6群8枚(35mmフィルム換算35～105mm相当)
測光方式	：撮像素子によるデジタルESP測光方式、スポット測光
露出制御方式	：プログラム自動露出
絞り*	：W：F2.8、F8 T：F4.4、F12.6
シャッター*	：1/2～1/1000秒 (メカニカルシャッター併用） *マニュアル設定はできません。
撮影範囲	：0.8m～∞(通常モード） 0.2m～0.8m(マクロモード）

付録

仕様（つづき）

ファインダー	：	光学実像式ファインダー(オートフォーカスマーク/逆光自動補正マーク)、液晶モニタ
液晶モニタ	：	1.8型（インチ）TFTカラー液晶
モニタ画素数	：	約61,000画素
オンスクリーン表示	：	日付時刻、コマナンバー、プロテクト、画質モード、電池残量、ファイル番号、プリント予約、メニュー、他
フラッシュ充電時間	：	約8秒以下(常温時、新品電池使用)
フラッシュ撮影範囲	：	W：約0.2m～4m T：約0.2m～2.6m
フラッシュモード	：	オート発光(低輝度時自動発光、逆光時自動発光)、赤目軽減発光、発光禁止、強制発光、スローシンクロ、赤目軽減＋スローシンクロ
コントロールパネル	：	画質モード、撮影可能枚数、カード警告/カード機能、フラッシュモード、セルフタイマー、電池残量、連写、マクロモード、スポット測光モード、プリセットホワイトバランス、ISO、露出補正、シャープネス、書き込み中を表示
オートフォーカス	：	TTL方式AF
検出方式	：	コントラスト検出方式／焦点調節範囲：0.2m～∞
セルフタイマー	：	作動時間約12秒
外部コネクタ	：	DC入力端子、 データ入出力端子 (RS-232C)、 ビデオ出力端子 (NTSC方式)
日付・時刻	：	画像データに同時記録
自動カレンダー機能	：	2030年まで自動修正
カレンダー用電源	：	内蔵キャパシタによるバックアップ

カード機能　：パノラマ合成
別売の機能付カード使用時
：テンプレート合成、カレンダー合成、手書きタイトル合成

使用環境
温度　：０～４０℃(動作時)／－２０～６０℃(保存時)
湿度　：３０～９０％(動作時)／１０～９０％(保存時)

電源　：単３アルカリ電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、またはニッカド電池４本。あるいはCR-V３（当社製LB-０１）リチウム電池パック２個。単３マンガン電池は使用できません。

大きさ　：幅１２７mm×高さ６６.５mm×厚さ５３mm(突起部含まず)

質量　：２７０g(電池／カード別)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

- 札　幌 ………………… 011-231-2338
- 仙　台 ………………… 022-218-8437
- 東　京(八王子)……… 0426-42-7499
- 名古屋 ………………… 052-201-9585
- 大　阪 ………………… 06-6252-0506
- 広　島 ………………… 082-222-0808
- 福　岡 ………………… 092-724-8215

※上記のアクセスポイントまで電話をかけていただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。アクセスポイントまでの電話料金はお客様のご負担となりますので、ご了承ください。

営業時間　10：00～17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jpでデジタルカメラ及び関連製品の技術提供をしております。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休みます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1丁目2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区中央1丁目13-4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
松　本	〒390-0815	松本市深志1の2の11　松本昭和ビル	Tel.0263(36)5331
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
金　沢	〒920-0961	金沢市香林坊1の2の24　千代田生命金沢ビル	Tel.076(262)8257
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
高　松	〒760-0007	高松市中央町11の11　高松大林ビル	Tel.087(834)6166
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0001	福岡市中央区天神1の14の1　日本生命福岡ビル	Tel.092(761)4466
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル	Tel.099(225)1105
沖　縄	〒900-0015	那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル	Tel.098(864)5396

1AG6P1P0711- -　　VT1147